

ASEANハノイオフィス開設調印式を開催

令和元年度第1回北海道地区国立大学等災害連絡協議会を開催

「北海道大学 緑のビアガーデン2019」「北海道大学 緑のジンギスカン Wine&Beer2019」を開催

お知らせ

・被扶養者の要件の確認





ASEANハノイオフィス開設調印式



令和元年度第1回北海道地区国立大学等災害連絡協議会

全学ニュース

- 1 ASEANハノイオフィス開設調印式を開催
- 2 令和元年度第1回北海道地区国立大学等災害連絡協議会を開催
- 2 事務局職員を対象に免震体験会を実施
- 3 「北海道大学 緑のピアガーデン2019」「北海道大学 緑のジンギスカンWine&Beer2019」を開催
- 4 北大フロンティア基金
- 6 北大フロンティア基金「秋の特別キャンペーン」のお知らせ
- 7 成瀬澄子氏に紺綬褒章が授与
- 7 医療法人社団京愛会に紺綬褒章が授与
- 8 2019年度北海道大学公開講座「いま感じる、生かす、見つめなおす スポーツの力」が終了
- 9 2019年度春季国際交流会～たすけあい、Cooperation～を開催
- 10 令和元年度北海道大学レーン記念賞授与式を挙行政
- 10 令和元年度北海道大学新渡戸賞授与式を挙行政
- 11 「ホリデーイン日高2019」を開催
- 12 「北海道大学入試改革フォーラム2019」を開催
- 12 令和元年度北海道大学入試説明会を実施
- 13 国家公務員総合職採用試験 2次試験直前対策会を開催
- 14 科学研究費助成事業実務担当者向け説明会を開催
- 14 札幌キャンパスで特定外来生物防除を実施
- 15 DEMOLA HOKKAIDO 1stバッチが終了
- 15 「製薬企業5社合同 研究公募説明会&面談会」を開催
- 16 ハルトプライズ地域予選において、日本勢で初めて優勝した「AQUAMOU（アクアモウ）」チームの優勝報告会と社行会を実施
- 17 「第1回ファーマラボ EXPO アカデミックフォーラム」に出展
- 18 中学生対象「AIとデータサイエンスを知って親しむ講義×体感イベント」開催
- 19 高等教育研修センターにて研修会を開催
- 21 令和元年度第1回サステナブルキャンパス推進員会議を開催
- 21 国際連携研究教育局（GI-CoRE）人獣共通感染症グローバルステーションが第7回人獣共通感染症克服のためのコンソーシアム会議を開催
- 22 国際連携研究教育局（GI-CoRE）ソフトマターグローバルステーションが国際ミニシンポジウムを開催
- 23 国際連携研究教育局（GI-CoRE）食水土資源グローバルステーション（GSF）が「世界の食資源システムにおける生物多様性に関する国際シンポジウム」を開催

部局ニュース

- 24 人間知・脳・AI研究教育センターを設置
- 25 札幌市、株式会社ニトリホールディングスと「みらいIT人材」育成のための連携協定を締結
- 26 数理・データサイエンス教育研究センターに株式会社ニトリホールディングスによる寄附講座を設置



緑のピアガーデン2019



ハルトプライズ地域予選優勝報告会兼社行会



医学部創立100周年記念特別講演会



フィンランドをテーマとした図書展示

- 26 ソウル大学校法学専門大学院長等が法学研究科・法学部を来訪
- 27 医学部で創立100周年記念特別講演会を開催
- 27 北海道大学納骨堂慰霊式を挙行政
- 28 獣医学部におけるEAEVE認証取得のための本審査の実施
- 29 先端生命科学研究院で教育環境改善FD研修会及び理学部オリエンテーション報告会を開催
- 30 第4回保健科学研究院国際シンポジウムを実施
- 31 薬学部で第22回生涯教育特別講座夏季講演会を開催
- 32 令和元年度第1回農学研究院FD研修会を開催
- 32 農学院で「留学生オリエンテーション」を開催
- 33 メディア・コミュニケーション研究院公開講座「ロシアとロシア人のアイデンティティ」が終了
- 34 スラブ・ユーラシア研究センター国際シンポジウム「民主主義の世界的危機？ 権威主義とポピュリズムの台頭と進化」開催
- 35 総合博物館で学生企画・展示解説イベント「みんなの博物館物語－選ぶ・語る・描く－」を開催
- 36 学生によるミュージアムグッズの企画開発
- 37 国立東華大学（台湾）との国際合同実習「International training course of ecosystem and environment science」を開催
- 38 静内研究牧場の短角牛肉を販売
- 38 北海道大学病院で夜間想定防火訓練を実施
- 39 北海道大学病院で「第60回ふれあいコンサート 七夕の夕べ」を実施
- 39 フィンランドをテーマとした図書展示を開催
- 40 医学部附属医院薬局長酒井隆吉、農学博士酒井隆太郎の関係資料を大学文書館で受贈
- 41 中谷宇吉郎書画を大学文書館で受贈

お知らせ

- 42 被扶養者の要件の確認

レクリエーション

- 42 教職員テニス大会の開催
- 44 学内教職員バドミントン大会（個人戦）の開催

諸会議の開催状況 46

学内規程 46

研修

- 47 令和元年度北海道地区国立大学法人等事務情報化講習会（Access研修 初級編）

人事 47

- 48 新任教授紹介
- 48 新任部課長等紹介

■全学ニュース

ASEANハノイオフィス開設調印式を開催



出席者との記念撮影



オフィス開設に係る合意覚書に署名した笠原総長職務代理（右）とNguyen学長（左）

7月9日（火）、ベトナム国家大学ハノイ校科学大学内に本学「ASEANハノイオフィス」を開設するにあたり、調印式を行いました。本学とベトナム国家大学ハノイ校科学大学とは2013年3月に大学間交流協定を締結しています。

当日は、ベトナム国家大学ハノイ校科学大学からNguyen Van Noi学長とNguyen Duc Hoai国際交流室職員が、また、本学からは笠原正典総長職務代理、泉典洋工学研究院教授、川野辺

創ASEANハノイオフィス所長の他、同校出身の本学学生等4名が調印式に出席しました。

調印式では、笠原総長職務代理、Nguyen学長双方から、オフィスを活用してのASEAN地域全体との活動連携強化や交流推進に期待が示され、その後、オフィス開設にかかる合意覚書に両者が署名しました。

本学は第3期中期計画やスーパーグローバル大学創成支援構想調書において、多くの外国人留学生が見込まれる

ASEAN地域との交流の推進を掲げています。タイ、インドネシア及びフィリピンに設置している本学リエゾンオフィスに加え、本オフィスは、優秀な留学生を本学へ受け入れる活動を展開していく等、ASEAN地域の高等教育機関との交流が一層推進されていくことが期待されます。

（国際部国際連携課）

令和元年度第1回北海道地区国立大学等災害連絡協議会を開催

北海道地区では7国立大学（北海道大学、北海道教育大学、小樽商科大学、室蘭工業大学、帯広畜産大学、旭川医科大学、北見工業大学）、4国立高等専門学校（苫小牧工業高等専門学校、函館工業高等専門学校、釧路工業高等専門学校、旭川工業高等専門学校）、2国立青少年教育施設（大雪青少年交流の家、日高青少年自然の家）の13機関による「大規模災害発生時における北海道地区国立大学等間の連携・協力に関する協定」を平成30年2月23日に締結しており、大規模災害発生時における相互支援及び、平時から各機関における防災・減災対策に関する情報交換を行うこととしています。

7月26日（金）、本学百年記念会館

において、本協定の円滑な実施を図るため、各機関のリスク管理・危機管理担当者らによる「令和元年度第1回北海道地区国立大学等災害連絡協議会」を開催しました。

協定締結後、初開催となる本協議会では、昨年9月に発生した「北海道胆振東部地震における対応及びその後の

取組」と「各機関の備蓄状況」について情報交換を行いました。

今後は、本協議会において災害発生時における物的支援や人的支援に係る運用ルール等について検討を予定しています。

（総務企画部総務課）



協議会の様子



議事進行を務める河野孝紀総務企画部次長

事務局職員を対象に免震体験会を実施

7月17日（水）、本学構内（事務局2号館東側）において、THK株式会社の免震体験車による免震体験会を実施しました。

本体験会は、災害発生時に災害等危機対策本部要員となる事務局職員の防災意識向上を目的として実施したものです。

免震体験車は、過去80年間に起きた大地震の揺れや、震度5～7といった震度ごとの揺れを再現することが可能で、揺れと免震効果の両方を体験できる車両です。

本体験会には、理事を含めた88名の事務局職員に参加いただき、参加者一人一人が災害等に対する問題意識を持

つ機会となりました。

総務企画部総務課においては、今後も研修や訓練等を計画しており、引き続き本学構成員の防災意識の向上に努めていく予定です。

（総務企画部総務課）



免震体験会の様子



東日本大震災の揺れを体験する笠原正典理事・副学長（右から2番目）



免震装置の構造について説明を受ける天野 良施設部長（手前左）

「北海道大学 緑のビアガーデン2019」 「北海道大学 緑のジンギスカンWine&Beer2019」を開催

今年で14回目となる「緑のビアガーデン」を、北海道大学校友会エルム、北大マルシェ Café&Labo、麒麟ビール株式会社、有限会社エスパシオ（元祖美唄やきとり福よしグループ）の協力のもと、7月12日（金）から19日（金）まで開催し、無事終了しました。

今年は昨年より期間を3日間延長し、土・日・祝日も含め開催しました。実演販売では、昨年好評いただいた「元祖美唄やきとり福よし」で有名な、できたての焼鳥やとりだしそばな

どをフードメニューとして提供したほか、ビールが苦手な方向けのソフトドリンクやかき氷など夏らしいメニューも提供しました。

また、昨年本学構内に開店し、1周年を迎えたセイコーマート北海道大学店では、「緑のジンギスカンWine&Beer」を、7月22日（月）から26日（金）までの5日間開催しました。

店内2階のテラス席や店舗周辺の緑あふれるエリアで、ジンギスカンとビールやワイン、そしてワインに合うおつまみなどが提供され、学生だけで

なく一般市民や観光客など多くの方々がジンギスカンを囲みながら交流を深めていました。

期間中は天候不良な日もありましたが、夏の暑さを感じられる日も多く、両イベントともに緑あふれる北大キャンパスでの爽やかなひと時を、多くの皆様に楽しんでいただくことができました。

（総務企画部広報課）

【緑のビアガーデン2019】



北大の夕べを楽しむ皆様



賑わうフードコーナー



一番人気のやきとり



夏らしいメニューも提供

【緑のジンギスカンWine&Beer2019】



店舗前席の様子



熱々のジンギスカン

北大フロンティア基金

北大フロンティア基金は、本学の創基130年を機に、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自立性を發揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に創設しました。

募金目標額は50億円です。奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っており、期限を付さない、息の長い募金活動することとしています。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

北大フロンティア基金情報
基金累計額（7月31日現在）

24,702件 4,910,958,701円

7月のご寄附状況

法人等22社、個人216名の方々から22,290,866円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、同意をいただいているの方々のご芳名、銘板の掲示、感謝状の贈呈について掲載させていただきます。（五十音別・敬称略）

寄附者ご芳名（法人等）

医療法人愛全会、社会医療法人恵佑会、医療法人研成会 札幌鈴木病院、医療法人五風会 さっぽろ香雪病院、
社会医療法人札幌清田病院、参天製薬株式会社、市立旭川病院、ニューオータニイン札幌、柏楊印刷株式会社、
医療法人社団林下病院、株式会社ミール、医療法人社団萌生舎 宮の沢腎泌尿器科クリニック、
社会福祉法人北海道社会事業協会余市病院

寄附者ご芳名（個人）

合川 正幸	朝井 克司	新井 三郎	飯塚 正	石黒 公美	石坂 實	石原 千愛	石間戸宗明
伊藤佑太郎	伊奈 孝芳	井上 弘子	猪股 哲美	井原 博	入澤 秀次	岩城 厚	岩崎 浩基
岩野 弘幸	上野 貴希	氏平 増之	浦木健太郎	永楽 謙五	緑記 和也	及川 和宏	大原 正範
奥田 英信	押場 昭人	小田原一史	小内 透	折津 愈	折登 一隆	折橋 英行	鍵和田忠男
笠田 竜太	勝山 真吉	加藤千恵次	加藤 正仁	金川 眞行	鎌倉 安秀	川上 秀明	川原 幸則
河本 充司	来田 健造	喜多 司郎	北古味 雄	喜多村 昇	金 正出	木村 昭彦	木村 範明
木村 徳広	久下 眞一	日下 大器	草野 周	工藤 育夫	工藤 正尊	工藤 芳之	國井 利佳
久保田宗子	窪田 開拓	児玉 信雄	小林 泰	小林 良彦	斉藤 久	坂本 大介	左近 祥夫
佐々木重幸	佐々木信廣	佐藤 紘一	佐藤 博昭	鮫島 寿一	三升畑元基	塩津ゆりか	重田 親司
志済 聡子	渋谷 正人	嶋田 誠	志村 謙介	釈田 秀明	首藤 義明	菅原 保孝	杉江 和男
杉山 千春	鈴木なみえ	首藤安都子	須藤 修方	諏訪 正明	瀬尾 淳一	瀬名波栄潤	多賀 信彦
高橋千代丸	滝戸 陽子	竹井 秀敏	竹内 淳	竹下 知裕	武田 和也	武田 由美	立見 裕
田所 保	田名部宗之	種田 忠夫	竹馬 俊介	千脇 美香	辻永 真吾	土家 琢磨	土屋 裕
寺澤 睦	戸田 純子	戸田 信之	豊田 威信	内藤 拓	中紙 麦平	中島 正喜	中田 邦雄
中塚 英俊	中村 將	奈良林 直	新沼 奎彦	和 孝雄	西田 実弘	根上 敦史	野中 淳
野呂 雅之	橋本 博介	波多野俊樹	早川 達也	原林 透	平原 伸幸	福島 義和	福永 悟郎
福永徳三郎	藤井 靖久	古澤 正三	前田 駿	前田 博	政氏 伸夫	松岡 省自	松原 謙一
松宮 信也	真部 淳	丸山 早苗	皆川 一志	三野 昇	宮田 信幸	三好 憲一	村上 伸広
村上 幸夫	安延 義弘	柳川三千代	柳田 健司	矢野 哲憲	矢野 智之	山 公美子	山口 彰
山下 謙二	山平 文弘	山本 高志	余湖 兼右	横井 成尚	横山 考	吉澤 守	吉田 広志

銘板の掲示（20万円以上のご寄附）

（法人）

医療法人愛全会，社会医療法人恵佑会，医療法人研成会 札幌鈴木病院，医療法人五風会 さっぽろ香雪病院，
参天製薬株式会社，医療法人社団林下病院，社会福祉法人北海道社会事業協会余市病院

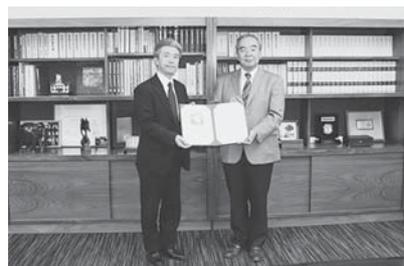
（個人）

石間戸宗明，井上 弘子，永楽 謙五，折津 愈，加藤千恵次，喜多村 昇，金 正出，木村 徳広，工藤 正尊，
工藤 芳之，國井 利佳，竹内 淳，新沼 奎彦，橋本 博介，波多野俊樹，早川 達也，原林 透，松宮 信也，
真部 淳，矢野 智之，山下 謙二

感謝状の贈呈



北海道ガス株式会社 様（令和元年7月1日）



北大医学部泌尿器科同門会 様
（令和元年7月17日）



栗原 義夫 様（令和元年7月18日）



宗 代次 様（令和元年7月19日）

ご寄附のお申し込み方法

北大フロンティア基金ホームページの「教職員の方によるご寄附について」にアクセスして下さい。

<https://www.hokudai.ac.jp/fund/howto-staff.html>

① 給与からの引き落とし

ホームページから「北大フロンティア基金申込書（兼・給与口座からの引落依頼書）」をダウンロードし，ご記入の上，基金事務室に提出してください。

② 郵便局または銀行への振り込み

基金事務室にご連絡ください。払込取扱票をお送りします。

③ 現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて，基金事務室にご持参ください。

申込書は，ホームページから「北大フロンティア基金申込書（教職員現金用）」をダウンロードしてご記入いただくか，基金事務室にもご用意していますので，基金事務室にお越しただいてからご記入いただくことも可能です。

④ クレジットカード決済・コンビニ決済でのご寄附

北大フロンティア基金ホームページ

（<https://www.hokudai.ac.jp/cgi-bin/fund/bin/xRegist.cgi>）の寄附申し込みフォームから申込をお願いします。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ 基金事務室（事務局・学内電話 2017）

（総務企画部広報課）

北大フロンティア基金「秋の特別キャンペーン」のお知らせ

北大フロンティア基金では、8月1日（木）から10月4日（金）まで「秋の特別キャンペーン」を実施しています。キャンペーン期間中に20万円以上ご寄附いただきました個人の方全員に、北大農場産の「ジャガイモ10kg」、北大農場産の「お米3kg」、今年3月に発売となりました北海道大学認定商品「北大おかき」から、好きな商品をいずれか一つプレゼントいたします。発送は12月頃を予定しております。

ご寄附の方法については、銀行振込・郵便振替のほか、クレジットカードでの決済や、コンビニエンスストアでのお手続きも可能です。

皆様からのご寄附は、学生への奨学金給付や海外派遣支援、学生団体の活動助成、外国人留学生の受入支援、就職支援、教育環境整備、研究活動支援など、さまざまな支援事業に活用させていただきます。多くの方々からの温かいご支援・ご協力を心からお待ち申し上げます。

※商品はお一人様いずれか1品となります。ジャガイモ・お米の品種はご指定できません。また、作物の収穫状況によってご希望の品にならない場合がございますので、あらかじめご了承ください。

（総務企画部広報課）



北大フロンティア基金
Hokkaido University Frontier Foundation

秋の特別キャンペーン

北大農場産「ジャガイモ」「お米」、「北大おかき」
いずれか一つをプレゼント！



北大農場産 ジャガイモ 10kg



北大農場産 お米 3kg



北大おかき 50g 6袋

北大農場では、教育研究での利用を目的として「ジャガイモ」「お米」をはじめ「コムギ」「トウモロコシ」「アズキ」など、北海道を代表する作物や園芸作物（野菜、果樹、花）の新規作物なども栽培管理しています。今回はその中から「ジャガイモ」と「お米」をご用意いたしました。
※ジャガイモ・お米それぞれ品種の増産はできません。また収穫状況によっては、他の作物・商品へ変更させていただく場合がございます。

北海道大学オリジナル商品より、2019年9月に新たに発売となった「北大おかき」は、道産米を使用した北海道らしい商品です。
「醤油バター味」と「鶏せとうきび味」各3個の計6個を詰め合わせてお送りいたします。

◎**キャンペーン期間**
令和元年8月1日（木）～10月4日（金）
※ 期間内に金融機関又はコンビニにて入金手続き、又はクレジットカード支払いの申込み手続きをされた方が対象となります。

◎**キャンペーン対象**
期間中 20万円以上のご寄附をいただいた個人の方

◎**プレゼント対象品**
写真の「ジャガイモ」「お米」「おかき」からお一つをお選びください。
発送は12月頃を予定しています。

※ 対象者には、後日ご希望の商品等を確認するご案内をお送りいたします。
応募者多数の場合にはご希望の品にならない場合があります。

スマートフォン・クレジットカードにて寄附申し込みができます！

お問い合わせ
北大フロンティア基金事務局
☎ 011-706-2017
✉ kikin@jimu.hokudai.ac.jp



成瀬澄子氏に紺綬褒章が授与

北大フロンティア基金に多額の寄附をされた成瀬澄子氏に紺綬褒章が授与されました。

成瀬氏は、本学理学部を卒業後、本学大学院に進学し、昭和33年に修了されました。昭和36年に福島県立医科大学より医学博士の学位を、昭和48年に本学より理学博士の学位を授与されています。福島県立医科大学助手、米国テキサス大学Postdoctoral Fellow、米国シカゴ大学Research Associateを経て、昭和45年に城西大学理学部助教授、昭和48年に同教授に昇任し、定年退職後も同大学招聘教授として平成13年まで勤務されました。

成瀬澄子氏と夫の故成瀬 隆氏は、本学理学部を卒業後、研究者として研究を続けてきたことから、次の世代の研究者に役立てていただきたいとの思いより、このたび北大フロンティア基金の特定資金として、出身の学科である、学部等支援（理学部生物科学科生

物学）に寄附をいただきました。

6月28日（金）に本学東京オフィスで行われた伝達式では、成瀬澄子氏から、隆氏とは植物学の同期であり、研究者として対等な関係で研究を続けてこられたことや、澄子氏が米国での研究ができたことも隆氏の渡米と力添えがあったからであり、今回のご寄附もお二人のお気持ちであるとお話いただきました。本学関係者が見守る中、笠原正典総長職務代理から褒章記が伝達されました。

※紺綬褒章とは、公益のために私財（個人の場合500万円以上、法人の場合1,000万円以上）を寄附した者を対象に、表彰されるべき事績の生じた都度、各府省等の推薦に基づき審査され、授与されるものです。

国、地方公共団体又は公益団体（公益を目的とし、法人格を有し、公益の増進に著しく寄与する事業を行う団体であって、当該団体に関係の深い府省等の申請に基づき賞勲局が認定した団体）に対する寄附が授与の対象となります。

（総務企画部広報課）



左から、皆川一志理事、成瀬氏、笠原総長職務代理

医療法人社団京愛会に紺綬褒章が授与



左から、吉岡医学部長、京愛会経営企画課 黒瀬匡彦様、笠原総長職務代理、京愛会 田畑理事長、京愛会 藤田恵二事務長、皆川理事

北大フロンティア基金に多額の寄附をされた医療法人社団京愛会に紺綬褒章が授与されました。

医療法人社団京愛会は、栃木県那須塩原市にて黒磯病院等を経営する医療法人です。本学医学部医学科を卒業された福富 京前理事長のご退任にあたり、創立100周年を迎える母校へ恩返

しをしたいとの思いから、平成30年3月に北大フロンティア基金の特定資金として、学部等支援（医学部創立100周年記念事業）にご寄附をいただきました。

伝達式は7月25日（木）に本学東京オフィスにて行われ、笠原正典総長職務代理、皆川一志理事、吉岡充弘医学

部長が参加しました。田畑陽一郎京愛会理事長より、千葉県医師会長時代のご経験や、地域に根差した医療についてお伺いしたのち、笠原総長職務代理より田畑理事長へ褒章が伝達されました。

（総務企画部広報課）

2019年度北海道大学公開講座 「いま感じる，生かす，見つめなおす スポーツの力」が終了

7月1日（月）から22日（月）まで、本年度の公開講座（全学企画）を開催しました。

東京オリンピック・パラリンピックを1年後に控え、スポーツに対する関心が高まる中、今回の公開講座は「いま感じる，生かす，見つめなおす スポーツの力」を共通のテーマとして開催されました。公開講座実施部会（部会長：大滝純司・医学研究院教授）において全学から選ばれた8人の講師が、それぞれの専門分野からこの共通

テーマを受け止める形で講義を行いました。

講義では、最新の研究や実務の動向の紹介を通して、スポーツと健康、スポーツと地域活性化、スポーツを巡る諸問題等が多角的に取り上げられました。こうした学びの機会は本学の全学企画だからこそ提供できるものであり、本年度も多くの受講者から、講義内容の幅広さと深さ、講師のわかりやすい説明に高い評価が寄せられています。また、各回の講義後の質疑の時

間には、受講生自身のスポーツ体験を通じた質問等の熱心な発言があり、受講者の方々の意欲の高さが感じられました。

最終回の講義終了後には閉講式が行われ、全8回中6回以上出席した57名の受講者に修了証書が授与されました。

（学務部学務企画課）

各回の講義題目と講師

- 第1回「身体活動と健康」（医学研究院 教授 玉腰 暁子）
- 第2回「スポーツ・ツーリズムによる地方創生」
（観光学高等研究センター 准教授 石黒 侑介）
- 第3回「膝関節のスポーツ傷害」（北海道大学病院 教授 近藤 英司）
- 第4回「観る，視られる，^{かみ}省みる：認知科学から^み覽るスポーツ」
（教育学研究院 准教授 阿部 匡樹）
- 第5回「様々な温度環境に対する人体の生理応答」（工学研究院 准教授 若林 斉）
- 第6回「スポーツをめぐる法と倫理ードーピング問題」
（法学研究科 教授 小名木 明宏）
- 第7回「障害者スポーツの世界とできない身体の創造性」
（教育学研究院 助教 山崎 貴史）
- 第8回「理想主義との対話～未だ達成されぬオリンピック・デモクラシーの歴史～」
（教育学研究院 教授 池田 恵子）



受講風景



修了証書授与

2019年度春季国際交流会～たすけあい, Cooperation～を開催



参加者集合写真

6月28日（金）、北大生協北部食堂において、学務部学生支援課主催による2019年度春季国際交流会を開催しました。

この行事は、留学生及び日本人学生の国際交流の機会を提供し、本学での学生同士の繋がりをより強めることを目的に実施するもので、32の国や地域の学生から申込みがあり、当日は新渡戸カレッジ生を中心としたボランティア13名を含め、約190名の参加がありました。

ミシェル・ラフェイ・ケイ総長補佐の挨拶の後、同総長補佐、司会の菅原季起さん（薬学部2年）、石川結女さん（理学部2年）ら3名の乾杯の発声で開会しました。

食事担当の学生ボランティアは参加

者が宗教にかかわらず料理を食べられるよう事前に北部食堂のスタッフと打ち合わせを行い、会場装飾担当の学生ボランティアは落書きコーナーを会場の柱に設け、ステージに本学ロゴマーク入りのバックパネルを設置したほか、本学の風景写真、折り紙、造花で会場を華やかに飾り付けました。

会の中盤ではブルーグラスバンドやアカペラ演奏団体によるパフォーマンス披露を行い、その後、留学生に人気のヒューマンビンゴを行いました。ヒューマンビンゴにおいては、学生同士で互いに質問し合いながら和気あいあいと触れ合うことで交流の輪を広げることができた様子でした。ゲームをクリアした参加者は賞品の北大グッズを受け取り、嬉しそうな笑顔を見せて

いました。

学生達はお互いに連絡先を交換し、本学での新しい友人づくりを楽しんでいる様子でした。

この交流会は日本人や外国人留学生から公募した学生ボランティアが企画・運営をしており、交流会終了後の反省会では次回の交流会に向けての改善点や対策等、前向きな意見が寄せられました。

次回は冬季の実施を予定しており、学生の運営ボランティアや、さらに多くの参加者が集まることを期待しています。

（学務部学生支援課）



ラフェイ総長補佐による開会挨拶



ヒューマンビンゴをする学生達と会場全体の様子



交流する参加者の様子

令和元年度北海道大学レーン記念賞授与式を挙

7月2日（火）、高等教育推進機構大会議室において、令和元年度北海道大学レーン記念賞授与式を挙し、8名の学生が受賞しました。

レーン記念賞は1・2年次の英語の成績が特に優秀な学生を表彰する制度で、昭和40年から「レーン記念奨学金」として始まり、平成9年からは「レーン記念賞」と名を改め、今回を含め390名の学生に授与されています。

授与式には6名の受賞者が出席し、長谷川晃理事・副学長、渡邊 洋名誉教授、外国語教育センターの奥 聡教

授、そして河本雅弘学務部長の列席のもと、奥教授からレーン記念賞の歴史と、本賞に名をいただいているハロルド・Mレーン（Harold M.Lane）先生の功績についての説明がありました。

次いで長谷川理事・副学長から受賞者へ賞状、記念メダル及び図書カードが授与され、「皆さんには今後も英語力により一層磨きをかけて、国際性豊かで周囲から敬愛される人間を目指していただきたい」との挨拶がありました。

（学務部学生支援課）

受賞者

文学部	村 山 紗 英
文学部	江 連 すみれ
教育学部	岡 本 愛 香
理学部	新 井 真祐子
工学部	山 本 潤
工学部	北 川 峻 也
工学部	竹 内 智 香
農学部	中 村 翔 陽



授与式の様子



受賞者記念撮影

令和元年度北海道大学新渡戸賞授与式を挙

7月12日（金）、高等教育推進機構大会議室において、令和元年度北海道大学新渡戸賞授与式を挙し、13名の学生が受賞しました。

新渡戸賞は優秀な学部生の育成を目的として平成17年度に設けられた制度で、1年次における学業成績が特に優秀で、かつ人格に優れ、他の学生の模範となる2年次生に対して、奨励金が給付されます。

授与式には12名が出席し、長谷川晃理事・副学長、河本雅弘学務部長列席

のもと、長谷川理事・副学長から賞状が授与されました。

続いて長谷川理事・副学長から挨拶があり、新渡戸稲造博士の業績についてのお話と共に「今回の受賞を契機に、皆さんには自らの教養を積極的に深め、これからも大学生活をより有意義なものとし、世界に羽ばたく人間へと成長していただきたい」と激励の言葉を贈りました。

（学務部学生支援課）

受賞者

文学部	中 原 正 経
教育学部	飯 田 峻 大
法学部	牧 真 由
経済学部	加 藤 大 晃
理学部	中 西 尋 昭
工学部	春 日 由 紀 子
農学部	小 澤 徹 也
獣医学部	吉 田 恵 実
水産学部	石 井 夏 樹
医学部（医）	水 藤 達 貴
医学部（保健）	田 中 実 緒
歯学部	鶴 田 かほる
薬学部	竹 中 優 佳



賞状の授与



受賞者記念撮影

「ホリデーイン日高2019」を開催



集合写真

7月6日(土)・7日(日)の2日間、日高町にて、「ホリデーイン日高」を開催しました。この事業は、留学生の多文化交流を目的として、また平成23年度からは、高等教育推進機構国際教育研究部(旧国際連携機構国際教育研究センター)及び学務部学生支援課(旧国際部国際教務課)と国立日高青少年自然の家との共催で毎年開催しています。28回目となる今年は、一般教育演習(フレッシュマンセミナー)「『国際交流』を実践する」の履修生及び新渡戸カレッジの学生11名、17地域35名の留学生の計46名が参加しました。

「ホリデーイン日高2019」では、参加者間の交流に加え、アイヌについて知ることを目的の1つとしています。同プログラムでは、日高青少年自然の

家に宿泊し、平取町立二風谷アイヌ文化博物館の見学、アイヌ舞踊や歌の講習、アイヌ文様の木彫り体験などを通じて、体験をもとにアイヌの生活や伝統に触れることができます。参加者は、留学生と日本人学生からなる合計8グループに分かれ、グループ毎にこれらの活動を体験したのちに、2日目の午後に、それぞれ、「アイヌの言葉」、「食生活」、「衣生活」、「道具」、「信仰」、「音楽」、「日高との関係」、「現在の状況」について学んだことをまとめて発表しました。

発表に向けてグループ内での交流を深めるため、1日目の午前中はグループ対抗のゲームやクイズで盛り上がりました。これらのゲーム・クイズは、ファシリテーターとして参加した日本人学生・留学生15名が企画・準備した

ものです。その後、シカ肉やイナキビの団子などの入ったアイヌ料理を食べたり、夜にはバーベキューをするなど交流を深めました。できる限り出身地や大学内での所属が異なる多様なメンバーとなるようグループを構成した結果、ほぼ全員が初対面の中、皆、日本語、英語、ジェスチャーを交えて、積極的にコミュニケーションを行っていました。

多様な言語的背景の参加者がいることを踏まえ、最終日の発表は日本語・英語の二言語で行ってもらいました。どのグループも、活動の間の時間を利用して、互いに助け合い、それぞれの言葉を教え合いながら準備を進めました。また、アイヌ文化を教えてくださいとお願いした講師の方々に積極的に質問をする様子も見られました。

2日間のプログラムを終え、参加者からは、「もっと日本語・英語を勉強したくなった」「もっとアイヌ文化について知りたくなった」などの声が多く聞かれました。参加者同士の交流、アイヌについて知るという目的を達成するには時間が足りなかったかもしれませんが、「ホリデーイン日高」が今後の更なる交流、学習のきっかけになればと願っています。

(学務部学生支援課)



昼食のお弁当を食べる参加者



アイヌ文化体験



バーベキューの様子

「北海道大学入試改革フォーラム2019」を開催

6月18日（火）、学术交流会館において、「北海道大学入試改革フォーラム2019」を開催しました。

今回が第3回となる本フォーラムは、次世代を見据えた入試改革の向かうべき方向性について検討することを目的としています。

「コンピテンシー評価に基づく新たな大学入学者選抜の可能性」というテーマのもと、笠原正典総長職務代理からの冒頭挨拶の後、第1部では基調講演として、独立行政法人大学入試センター審議役である白井 俊氏から「コンピテンシーとカリキュラム～

OECDにおける議論を踏まえて～」と題して講演いただきました。

第2部では、高等教育推進機構の池田文人准教授から「高大社を接続するコンピテンシーに基づいた多面的・総合的評価」、高等教育推進機構高等教育研究部の橋村正悟郎オフィサーから「水産学部および医学部医学科におけるAO入試へのコンピテンシー評価導入の経緯と今後に向けて」、岡山県立林野高等学校前校長の三浦隆志氏から「アセスメントとカリキュラム・マネジメントによる林野高等学校の改革～汎用的な能力・資質の育成と評価～」

と題して、それぞれ現状報告をしていただきました。

また第3部のパネルディスカッションでは、第1部、第2部の基調講演や現状報告に対する来場者からの質問などを紹介しつつ、今後の入試改革の方向性などについて総括的に討論しました。

今回のフォーラムは主に高等学校等の進路指導担当教諭、受験産業、他大学の教員の方等192名の参加があり、盛会のうちに終了しました。

（高等教育推進機構）



笠原総長職務代理による開会挨拶



白井氏による講演



池田准教授による講演



橋村オフィサーによる講演



三浦氏による講演



パネルディスカッションの様子

令和元年度北海道大学入試説明会を実施

7月18日（木）、学术交流会館において、高等学校等の進路指導担当教諭を主な対象とした入試説明会を開催し、高等学校等66団体から92名の参加がありました。

説明会では、笠原正典総長職務代理から挨拶があった後、長谷川晃理事・副学長（アドミッションセンター長）から本学の現状について、藤田 修ア

ドミッションセンター副センター長から平成31年度入試結果の概要について説明を行いました。

その後、質疑応答が行われ、さらに説明会の一環としてアドミッションセンター教職員による個別相談会が実施されました。

（アドミッションセンター）



笠原総長職務代理による挨拶

国家公務員総合職採用試験 2次試験直前対策会を開催

キャリアセンターでは、例年、国家公務員総合職の職員採用試験対策として、1次試験合格発表直後に2次試験直前対策会を開催しています。令和元年度は、5月13日（月）から17日（金）まで開催しました。

国家公務員総合職は、日本の政策立案を主業務とする使命感が求められる国家公務であり、多くの北大出身者を輩出するべく、キャリアセンターではこの様な対策会の開催や過去問題の整備・情報提供を通して支援をしています。令和元年度国家公務員総合職最終合格者は81名、全国の大学順位*では4位でした。

2次試験に向けたこの対策会は、公共政策学連携研究部の教員の方々のご協力をいただき、2次試験である人物試験（面接）、政策論文、政策課題討議、さらに、最終合格後の官庁訪問の対策を5日間で行いました。

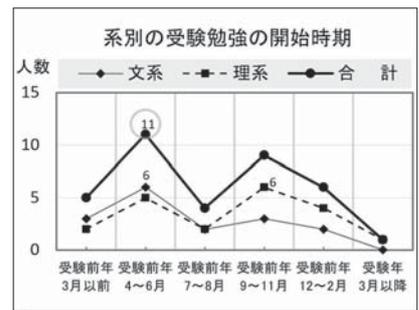
また、学生アンケートの結果から、国家公務員総合職の1次試験合格者の

受験勉強開始時期は、受験前年の4～6月（国家総合職1次試験まで約10～12ヶ月前）の時期が11名で一番多く、文系と理系学生によって勉強開始時期に大きな差が見られました（グラフ1）。

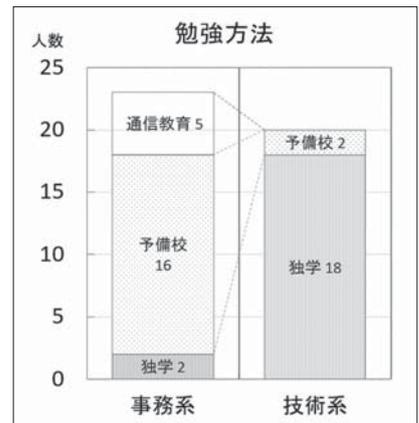
受験勉強の方法は、事務系の試験区分受験者は、予備校利用者が16名（アンケート回答者の70%）、通信教育利用者が5名（同22%）、独学者が2名（同9%）に対し、技術系の試験区分受験者は、独学者が18名（同90%）で、勉強方法にも大きな違いが見られました（グラフ2）。

*全国の大学順位：令和元年度国家公務員総合職最終合格者数の大学順位は、1位-東京大学307名、2位-京都大学126名、3位-早稲田大学97名、4位-北海道大学81名、5位-東北大学75名・慶應義塾大学75名、7位-九州大学66名、8位-中央大学59名、9位-大阪大学58名、10位-岡山大学55名。

（学務部キャリア支援課）



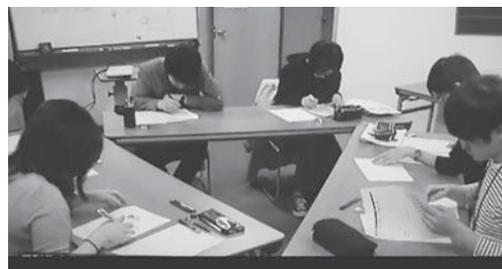
グラフ1：系別の受験勉強の開始時期



グラフ2：勉強方法



面接対策ガイダンス参加学生



政策課題討議トレーニング中の参加学生

科学研究費助成事業実務担当者向け説明会を開催

7月16日（火）、学术交流会館講堂において、科学研究費助成事業実務担当者向け説明会を開催しました。

本説明会は、科学研究費助成事業の円滑な実施に資することを目的として、独立行政法人日本学術振興会から講師を招へいし、「科研費制度の概要」「科研費の応募・審査」「科研費の管理と適正な執行」「研究費の不正使用、研究活動における不正行為の防止」等について講演を行いました。

当日は、各部局等において科研費に係る事務手続や経費管理、研究室の研究支援業務に従事している実務担当者約130名の他、道内研究機関の実務担当者約70名が参加し、日本学術振興会研究事業部研究助成第一課の横田美咲係長から講演があった後、参加者から科研費の使用手続や事務手続について積極的に質問が寄せられました。

（研究推進部研究振興企画課）



講演の様子

札幌キャンパスで特定外来生物防除を実施

7月2日（火）、札幌キャンパスにて、通算11回目となる特定外来生物防除を実施し、教職員38名、大学生4名及び札幌市職員2名の計44名が参加しました。

今回の防除は、大野池周辺と地球環境科学研究院北側周辺にて実施しました。

当日参加者は、午前10時に中央食堂南側レクリエーションエリアに集合し

ました。はじめに、サステイナブルキャンパスマネジメント本部生態環境マネジメントワーキンググループ長である愛甲哲也農学研究院准教授から挨拶があり、続いて、露崎史朗地球環境科学研究院教授から、特定外来生物（植物）であるオオハンゴンソウと要注意外来生物（植物）のドクニンジンの見分け方の説明がありました。

防除作業は大野池周辺から実施し、

その後情報基盤センター東側に移動し、約2時間の作業で、オオハンゴンソウ約6m³及びドクニンジン約2m³の計約8m³を防除することができました。

これら防除した結果は、年末に環境省へ報告します。

（施設部環境配慮促進課）



愛甲WG長（中央）による挨拶



露崎教授（中央）による説明



大野池周辺防除状況



大野池周辺防除状況



特定外来生物防除メンバー



中央食堂東側防除状況

DEMOLA HOKKAIDO 1stバッチが終了

5月25日（土）、産学・地域協働推進機構が実施している文部科学省のEDGE-NEXT事業*の「2019年度DEMOLA HOKKAIDO 1stバッチ」が終了しました。今回は株式会社北翔、SCSK北海道株式会社、日本たばこ産業株式会社の3社が参画する中、18名の学生が受講しました。

DEMOLAは教育だけではなく、参画企業・学生にとってインターンシップの一環にもなるもので、関係機関から高い評価を受けています。

DEMOLAはフィンランド生まれの産官学連携イノベーション創出プラットフォームで、世界16カ国、60大学が参加している国際的な企業課題解決ネットワークです。学生と企業担当者が一緒になって企業のリアルな課題解決に取り組むのが特徴です。

2ndバッチは8月10日（土）から10月5日（土）まで開催されます。最終

日に開催するFinal Demonstrationは一般公開していますので、ぜひ会場でDEMOLAに触れてみてください。3rdバッチは10月19日（土）から12月7日（土）まで開催を予定しています。（詳細はこちら <https://demolahokkaido.wixsite.com/hokudai>）

参画企業、受講学生の募集も併せて行っていますので、ご興味のある方は産学・地域協働推進機構（demola@

mcip.hokudai.ac.jp）までお問い合わせください。

*EDGE-NEXT 起業活動率の向上、アントレプレナーシップの醸成を目指し、我が国のベンチャー創出力を強化するのを目的とした、大学コンソーシアムを支援するプログラム。

（産学・地域協働推進機構）



修了証書授与の様子

「製薬企業5社合同 研究公募説明会&面談会」を開催

産学・地域協働推進機構は、6月24日（月）、北海道大学病院臨床研究開発センターと共同で「製薬企業5社合同 研究公募説明会&面談会」を北海道大学病院臨床研究棟大会議室で開催しました。

説明会では、アステラス製薬株式会社、EAファーマ株式会社、武田薬品工業株式会社、第一三共株式会社、持田製薬株式会社の各担当者から製薬企業等が実施している研究公募事業の内容について説明がありました。また、北海道大学病院臨床研究開発センターの杉田 修研究開発コーディネーターからは、2020年橋渡し研究シーズ募集

について説明がありました。

説明会後には企業との個別面談会にて23件を超えるシーズ相談が行われ、盛況な会となりました。

産学・地域協働推進機構では、今後

も共同研究公募事業に関する情報提供の機会を設けていきます。興味のある方はぜひご参加ください。

（産学・地域協働推進機構）



寺内伊久郎産学連携推進本部長による開会挨拶



杉田研究開発コーディネーターによる講演の様子

ハルトプライズ地域予選において、日本勢で初めて優勝した「AQUAMOU（アクアモウ）」チームの優勝報告会と壮行会を実施

7月12日（金）、理学部大講堂にて、ハルトプライズの地域予選で日本勢初優勝を果たした本学の学生チーム「AQUAMOU（アクアモウ）」の優勝報告会兼壮行会を開催しました。当日は悪天候にもかかわらず、会場には市民、学生、教職員など約70名の支援者が集まりました。

「学生のノーベル賞」と呼ばれるハルトプライズ

ハルトプライズとは、世界120カ国以上の大学生・大学院生が、人類の直面する社会問題を解決するための革新的な事業プランを競う世界最大規模の起業コンテストで、国連が提唱するSDGs（持続可能な開発目標）達成に向け、起業アイデアを提案するものです。国連が正式に支援し「学生のノーベル賞」とも呼ばれています。国連本部で行われる最終プレゼンテーションで優勝したチームには、起業のための資金として100万米ドル（日本円で1億円あまり）が贈られることになって

います。東京地域予選に出場したおよそ50チームの中から、AQUAMOUは日本初となる優勝を果たし、7月下旬からロンドンで行われるアクセラレータ・プログラム（強化合宿）への出場権を獲得しました。強化合宿で選抜された6チームが国連本部での最終プレゼンに臨むことになります。今回のイベントはそのアクセラレータ・プログラム参加への壮行会も兼ねて行われました。

AQUAMOUチームの紹介

AQUAMOUチームはナイジェリアからの留学生でリーダーを務めるイフェアニー・チュクさん（水産科学院修士2年）、同じくナイジェリアからの留学生ケルビン・イコグバさん（工学院修士1年）、錦織秀伸さん（水産科学院修士2年）、そしてインドからの留学生ランジャニ・ラジャゴバルさん（Integrated Science Program・理学部2年）の4人で構成されています。

本学の理念であるフロンティア精神と実学の重視を兼ね備えたテーマ

はじめに、瀬戸口剛工学研究院長から開会の挨拶があり、「AQUAMOUの提案は、北海道大学の基本理念であるフロンティア精神と実学の重視を兼ね備えた、理想的なテーマです。さらに、水産学、理学、工学と、まさに各研究分野を横断する多様な知の融合を体現し、地域予選を突破したことは、本学にとって本当に誇るべき快挙です」と今回の彼らの挑戦を称えました。



瀬戸口工学研究院長（左）



AQUAMOUチームによるプレゼンテーション



「AQUAMOU（アクアモウ）」の優勝報告会兼壮行会の様子



ジョン・パウワー准教授による講評

続いて、2018年度北海道大学ハルトプライズ実行委員長の坪井里奈さん（国際食資源学院1年）とAQUAMOUチームがこれまでの活動を報告し、地域予選の再現プレゼンテーションを行いました。また彼らを指導してきたジョン・パウワー准教授（水産科学院・国際教育室長）は高級魚として知られるティラピア（淡水魚）の養殖技術の研究について解説を加え

「AQUAMOUチームの研究は養殖における3つの問題（環境・エネルギー・エサ）を全て解決している」と講評しました。

その後、西井準治理事・副学長から「頑張って、楽しんで、北海道大学の代表として誇りを持って励んでください」と激励の言葉と共に花束贈呈が行われました。



西井理事・副学長（右）より花束贈呈

クラウドファンディングに挑戦し目標額を達成

AQUAMOUチームはロンドンへの渡航費や水槽などの試作品製作にかかる資金を募るため、6月14日（金）からクラウドファンディングに挑戦していました。多方面から支援が集まり7月11日（木）には目標額の100万円に到達、このイベント終了後の最終的な支援総額は約124万円に上りました。市民の皆様はじめ、学内外の皆様から多大なご支援をいただいたことを、関係者一同、心より感謝しております。

最後に堀口健雄理学研究院長から閉会の挨拶があり、「みなさんの活躍によって、多くの学生や教職員が勇気づけられました。AQUAMOUチームが

ロンドンでの強化合宿でさらに力を身につけ、ニューヨークで開催される本戦に進出することを祈念しております。どうか貴重な体験を世界中から集まる若者たちと共有してきてください」と、エールが送られました。会場は大きな拍手に包まれながら幕を閉じました。



堀口理学研究院長（左）

主催：水産科学研究院／工学研究院
／理学研究院／人材育成本部
協力：EARTH on EDGE北海道／
北海道大学ハルトプライズ実
行委員会

（理学研究院）



関係者集合写真

「第1回ファーマラボ EXPO アカデミックフォーラム」に出展

産学・地域協働推進機構は、7月3日（水）から5日（金）まで東京ビッグサイトにおいて開催された「第1回ファーマラボEXPOアカデミックフォーラム」に工学研究院と医学研究院の研究成果を出展しました。

工学研究院応用化学部門からは猪熊泰英准教授の研究成果である「多彩な合成変換が可能な脂肪族ポリケトン化合物」、医学研究院分子病理学教室からは宮武由甲子助教の研究成果である「マイクロ細胞培養基板によって明らかとなった癌細胞の真の姿」について、ポスター展示及びプレゼンテーションを実施しました。

本イベントには3日間を通して約4万2千人が来場しました。ポスター展

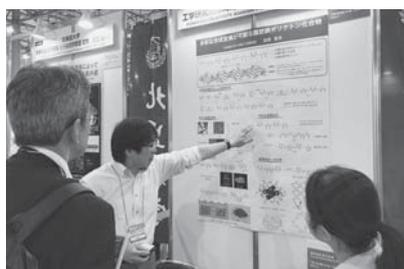
示では、各ブースで来場者と約90枚の名刺交換が行われ、プレゼンテーションでは約30人が聴講し、立ち見も出るほど盛況となりました。

既に現在、数社の企業と事業化に向けた面談を行っており、共同研究や特許に関する秘密保持契約、ライセンス

等の調整も進めています。

産学・地域協働推進機構では、今後も民間企業等とのマッチング及びパートナーリングの機会を設け、産学連携を推進していきます。

（産学・地域協働推進機構）



ポスター展示にて説明する猪熊准教授（中央）



プレゼンテーションを行う宮武助教

中学生対象「AIとデータサイエンスを知って親しむ講義×体感イベント」開催

人材育成本部女性研究者支援室と数理・データサイエンス教育研究センターは公益財団法人KDDI財団と共催で、7月27日（土）、情報科学研究院において、中学生対象のAIとデータサイエンスを知って親しむ講義×体感イベント2019『未来を創り出すデータサイエンスに触れてみよう』を実施しました。本企画はKDDI財団の「青少年啓発・育成活動助成」により実施しています。

市内の中学生に参加を募ったところ定員の6倍を超える応募があったため、抽選により選ばれた50名が参加しました。

はじめに情報科学研究院の長谷山美紀教授から「画像処理で広がる未来～わくわくする未来につながる最先端研究～」と題した講義がありました。画像処理やAIによって変わっていくこれから先の未来を少しだけ覗き見た中学生たちは目をキラキラさせていました。

続いてKDDI株式会社北海道総支社の毛利直子さんからは「高速で大容量の通信システム『5G』で実現する世界」と題し、これまでの通信システムの歩みから最先端の技術がどのように使われているのか、また今後どのよう

に使われていくのかという興味深いお話をいただきました。

午後は、情報科学研究院の小川貴弘准教授による「自分たちで組み立てたパソコンでAIを動かしてみよう！」という講義と実習を行いました。実習はパソコン内部を見たり、開発中のアプリを体験したりという魅力的な内容で、時間がいくらあっても足りないようでした。その後、中学生は「データサイエンス研究の現場探検と最先端の情報技術を体験」として、情報科学研究院の最先端の研究の様子を見て回りました。

最後に、保護者を対象として「未来の職業が生まれる？～2030年に必要とされるスキルを考える～」と題した講演を、長谷山美紀教授にお話いただきました。AIによってできることが増

える一方で、この先何が必要で何がなくなっていくのかといったお話しに保護者のみなさんは真剣な表情で聞き入っていました。

当日は、多くの報道機関が取材に訪れるなど、世間の関心の高さを実感しました。また参加者アンケートの結果も非常に好評だったことから、今後も内容を進化させつつも継続的に事業を実施したいと思います。

女性研究者支援室では、女子を中心とした中高生に対し、様々な理系進路選択支援の取組を行っています。その他女性研究者支援室の活動については、以下のウェブサイトをご覧ください。

◆<https://freshu.ist.hokudai.ac.jp/>

(人材育成本部)



真剣な目で講義を聞く中学生



実習でPCの内部を観察する様子

高等教育研修センターにて研修会を開催

高等教育推進機構高等教育研修センターでは、7月に以下のとおり研修会を開催しました。

(高等教育推進機構)

ハラスメント防止研修会 参加者：83名

開催日：7月2日（火）

開催場所：情報教育館3階スタジオ型研修室

開催概要：ハラスメントを未然に防ぐための、相手とのよりよい関係を築くコミュニケーションの基礎について、実践を通して身につけた。また、セクハラとパワハラを中心に、知識を深め、普段何気なく行っていることがハラスメントになるかどうかを考えた。



研修会「学生対応の基本～日常的学生支援の視点から～」 参加者：11名

開催日：7月4日（木）

開催場所：情報教育館3階スタジオ型研修室

開催概要：日常場面における学生支援の方法について、講義に加えてロールプレイも交えながら、参加者相互で体験的に学んだ。本研修会は、日常的学生支援（教職員が学習指導や窓口業務などにおいて自然な形で行う成長支援）の準備性を高めることを目的として開催した。



事務職員のためのプレゼンテーション研修【入門編】 参加者：3名

開催日：7月6日（土）

開催場所：情報教育館3階スタジオ型研修室

開催概要：プレゼンテーションの基本的な知識・技術・心構えを身につけることを目的として開催した。プレゼンテーションが苦手な方や基礎を学びたい方のための入門研修で、大学説明会や事業説明会などのプレゼンでPowerPoint等のスライドを使用するものを取り上げ、実践形式で進めた。



大学教員準備講座 参加者：11名

開催日：7月22日（月）～24日（水）

開催場所：情報教育館3階スタジオ型研修室

開催概要：将来大学教員になるための教授技法やコミュニケーションスキルを高めることを目的として開催した。学会やジャーナルで研究を伝えるとき、産学会の同僚たちとネットワークを作るときのための実践的な訓練と具体的な戦略を学んだ。



ワークショップ「学生とともに歩む～多様な学生のクラスを導く～」 参加者：6名

開催日：7月23日（火）

開催場所：情報教育館4階共用多目的教室（2）

開催概要：留学生等の混成クラスにおいて全ての学生の学びを支援するための学習活動や学習評価方法について、参加者の授業を見直すことを目的として開催した。異文化クラス教育実践の理論を学び、学生の課題や学習活動について批判的に分析し再構築した。日本人学生と同様に留学生を支援し促す学習経験、異なる文化的背景を持つ学生を巻き込む学習経験、学習者同士の学び合いを刺激する学習経験を検討した。



講演会「キャンパスにおける心のケア」 参加者：30名

開催日：7月25日（木）

開催場所：情報教育館3階スタジオ型研修室

開催概要：心のケアに関する正しい知識やスキルを身につけることで、職場や研究室の関係者にとって心強いサポーターとなることを目的として開催した。心のケアに役立つ人間関係のストレス因とポジティブなコミュニケーションスキル、ストレス対処方法などを学んだ。



講演会「高等教育における国際化のアプローチ」 参加者：21名

開催日：7月26日（金）

開催場所：情報教育館3階スタジオ型研修室

開催概要：カリキュラムを国際化するにあたり、学生への指導時に教員が活用できる学習経験や学習戦略について紹介した。教育現場で多文化の背景を持つ学生に対応できるスキルを向上する方法を知ることにより、学生の国際的なカリキュラムの充実化を目的として開催した。



講演会「学生が学んでいるのかをどう把握するか～授業中の教授・学習に関するフィードバックを得る～」 参加者：29名

開催日：7月26日（金）

開催場所：情報教育館3階スタジオ型研修室

開催概要：学生に対して順調に学んでいるかを伝え、学生がねらい通りに勉強しているかを確認し、学生が困難に感じている概念は何かを把握することについて、教員が活用できるさまざまなアセスメント技法を学んだ。



医歯薬保健分野対象ルーブリック評価活用ワークショップ【発展編】 参加者：9名

開催日：7月31日（水）

開催場所：情報教育館3階スタジオ型研修室

開催概要：医歯薬保健分野の他の先生がどのようなルーブリックを使っているのか、どのような工夫をし、またどんな課題を抱えているのか等について共有した。より教育効果の高いルーブリック作りを行うためのきっかけとなることを目的として開催した。



令和元年度第1回サステイナブルキャンパス推進員会議を開催

サステイナブルキャンパスマネジメント本部は、7月4日（木）、事務局大会議室において、令和元年度第1回サステイナブルキャンパス推進員会議を開催しました。各部署のサステイナブルキャンパス推進員及び同補佐のほか、施設部職員等合わせて51名の出席がありました。

本会議では、皆川一志本部長の挨拶の後、平成30年度冬季の節電結果報告、令和元年度夏季の節電対策、「研究・教育活動における省エネ」提案募集、インフラ長寿命化（個別施設計

画）策定、緑地の利用ルールの周知及び「省エネルギー対策の手引き2018」の活用状況調査結果について報告がありました。その後の意見交換では、オブザーバーとして出席していた北海道大学生協同組合より、令和元年6月1日に開始したレジ袋の有料化についての経緯報告と運用開始以降の状況説明がありました。

今回は11月に開催の予定です。

（サステイナブルキャンパスマネジメント本部）



意見交換の様子

国際連携研究教育局（GI-CoRE）人獣共通感染症グローバルステーションが第7回人獣共通感染症克服のためのコンソーシアム会議を開催



集合写真

人獣共通感染症グローバルステーションでは、メルボルン大学、アイルランド国立大学ダブリン校、アブドラ国王科学技術大学及び本学が連携して「人獣共通感染症の克服のためのコンソーシアム」を形成し、研究と教育を推進しています。

7月11日（木）・12日（金）、第7回人獣共通感染症克服のためのコンソーシアム会議（The 7th Meeting of the Consortium for the Control of Zoonoses）を人獣共通感染症リサーチセンターにおいて開催しました。本会議では、疫学、基礎研究、免疫学、ワクチン創薬開発、診断とゲノムの5つのセッションで、GI-CoRE所属の教員19名と研究員3名（外国人：11名、

日本人：11名）が現在進めている研究について発表しました。

11日（木）は、笠原正典総長職務代理による開会挨拶の後に、GI-CoRE所属のメルボルン大学のBrown教授、Hartland教授、Chua助教、アイルランド国立大学ダブリン校のHall教授、Gordon教授、Carr准教授をはじめとする8名の外国人研究者、及び日本人教員4名が、研究の進捗状況と今後の研究計画を口頭発表しました。12日（金）は、GI-CoRE所属のメルボルン大学のJackson教授、アブドラ国王科学技術大学のPain教授をはじめとする3名の外国人研究者、及び日本人教員7名が、GI-CoREプロジェクトで実施した研究成果を報告しました。



シンポジウムの様子

本会議は、公開シンポジウムとして開催され、教職員、学生、学外者を含め、のべ166名が参加し、活発な質疑応答、及び今後の国際共同研究についての議論をしました。

また、人獣共通感染症に対する予防法としてのワクチン、及び診断・治療法の開発、さらに、その基礎となる免疫学的研究、病態解析、疫学研究について、4大学間でさらなる国際連携を強化し、国際共同研究を持続的に推進していくことを再確認する有意義な機会となり、盛会のうちに終了しました。

（国際連携研究教育局）

国際連携研究教育局（GI-CoRE）ソフトマターグローバルステーションが国際ミニシンポジウムを開催



シンポジウムの講師と参加者での記念撮影



Hui教授による講演の様子

国際連携研究教育局（GI-CoRE）ソフトマターグローバルステーションは、7月17日（水）に創成科学研究棟5階大会議室において、国際ミニシンポジウム“Soft Matter Deformation and Function”を開催しました。海外からの招待講演者3名を含め52名が参加しました。

ソフトマターは次世代の生命科学イノベーションとして産業界、医療、環境・エネルギー分野など広範な研究分野から期待されています。柔らかい物

性のゲルと硬い物性のゲルからなるダブルネットワークゲルの基材となる柔らかい高分子ゲルの内部構造の形成やその変形・崩壊メカニズムの解明は新たな機能デザインの基礎となります。今回のシンポジウムでは、GI-CoREの北大ユニット教員5名の他に、アメリカユニットのChung-Yuen Hui教授（コーネル大学）、Wei Hong教授（アイオワ州立大学/南方科技大学）、及び Alfred Crosby教授（マサチューセッツ大学アマースト校）の招待講演によ

り、“Soft Matter Deformation and Function”について様々な対話を実施することができました。また、昨年4月に新設された生命科学院ソフトマター専攻の学生も本シンポジウムに参加し、最先端の研究を学ぶ有意義な機会を提供することができました。

（国際連携研究教育局、生命科学院・先端生命科学研究院）

国際連携研究教育局 (GI-CoRE) 食水土資源グローバルステーション (GSF) が「世界の食資源システムにおける生物多様性に関する国際シンポジウム」を開催

国際連携研究教育局 (GI-CoRE) 食水土資源グローバルステーション (GSF) は、カリフォルニア大学デービス校をはじめ多くの海外大学の教員とともに、様々な国際食資源問題の解決に向けた研究と教育を推進しています。

7月24日(水)、「世界の食資源システムにおける生物多様性に関する国際シンポジウム」を工学部フロンティア応用科学研究棟で、国際食資源学院、農学研究院、工学研究院及びロバスト農林水産工学国際連携研究教育拠点との共催で開催しました。1日の開催であったにもかかわらず教職員・学生等203名の参加者がありました。食料安全保障は、人口増加、貧困、グローバル化、気候変動、その他の要因により大きな課題に直面しています。生物多様性は、世界の食料安全保障を守り、健康的で栄養価の高い食事を支え、農村生活を向上させ、人々と地域社会の回復力を高めるために不可欠です。このシンポジウムでは、世界の食料システムにおける生物多様性と

その関連課題に関する先端的研究と実践的また学際的な取り組みが紹介されました。英国スコットランド・ルーラル大学学長Wayne Powell教授による基調講演「世界の食資源システムの持続的な強化に向けた生物多様性の様々な役割」、カリフォルニア大学デービス校Sharon Shoemaker教授による基調講演「生物多様性と連携による科学：世界の食料保障と循環食料経済の実現に向けた不可欠な要素」とともに、GI-CoRE教員や工学研究院の研究者からは様々な角度から最新の研究成果及び今後の食資源問題解決に向けた話題提供があり、講演者や参加者ら

との間で熱心な討議が行われました。また、恒例となった国際食資源学院学生のポスター発表も行われました。今回は38名の学生が現在実施している修論・博論研究の内容について発表しました。海外からの招へい教員による評価も併せて実施され、優秀発表した学生には国際食資源学院長賞が授与されました。学生にとっては、国際プレゼンテーションの機会になったとともに、今後の研究に向けた貴重なアドバイスを得ることができました。

(国際連携研究教育局, 国際食資源学院)



表敬訪問の様子



笠原総長職務代理による開会の挨拶



ルーラル大学 Powell学長による基調講演



国際食資源学院学生によるポスター発表表彰式

■ 部局ニュース

人間知・脳・AI研究教育センターを設置

7月1日(月)、人間知・脳・AI研究教育センター(CHAIN)が学内共同施設として設置されました。近年、脳科学やAIが「人間らしさ」への問いに挑戦し始めています。数千年にわたる「人間」研究の伝統を受け継ぐ人文社会科学と、現代科学の先端を行く脳科学、AIの知見が、共同研究によって一つに結び合うとき、そこに「人間とは何か」をめぐる新たな学問的知、「新たな人間知」が成立します。本センターは、そのような学際的な知の教育・研究を行うことを目的としています。

本センターは、文学研究院のイニシアチブにより開設が準備され、情報科学研究院、理学研究院、法学研究科、医学研究院、電子科学研究所など、学内の多くの部局が運営に参加しています。文学研究院からセンター長1名、学内の9部局から23名の兼務教員がセンターに所属しています。また、10月1日付けで3名の専任教員を配置する予定です。

センターの大学院教育プログラムは、令和2年度より開始する予定で現在準備を進めています。コースワークのほか、毎年開催されるサマースクール・ウィンタースクールを特徴としています。脳科学・AIに関する知識・

スキルを備えると同時に、人間や社会への深い洞察を備え、未来社会をデザインできる能力をもった人材の育成を目指します。

7月23日(火)には、工学部フロンティア応用科学研究棟レクチャーホールにてセンターの開所式を行いました。はじめに、笠原正典理事・副学長から開会の挨拶があり、続いて来賓の萩原一平氏(NTTデータ経営研究所エグゼクティブ・オフィサー)から挨拶をいただきました。次いで、田口茂センター長から、センターの概要について説明がありました。

開所式のメイン・イベントは3名のゲスト講師による特別講演でした。まず吉田正俊 生理学研究助教より、「意識を研究するとは? 盲視から神経現象学へ」というテーマで講演いただきました。盲視という不思議な現象を入り口として、神経科学と数理科学、哲学が交差する学際的研究の醍醐味をお伝えいただきました。続いて山田真希子 量子科学技術研究開発機構グループリーダーから「脳イメージングが映し出す心の世界」と題して講演いただきました。神経科学・心理学・精神医学を通じて、私たちが日頃抱くような人間的な諸問題に光が当てられていく内容は、多くの聴衆の関心を惹い

ていました。最後に亀田達也 東京大学教授から、「集合知の発生条件を探る——モデルベースの大型集団実験によるアプローチ」と題する講演が行われました。集団の意見がいかに少数のオピニオン・リーダーによって左右されやすいかが実証的に示され、聴衆に驚きを与えていました。3つの講演の後に、センター兼務教員による共同研究の紹介が行われました。最後に、山本文彦文学研究院長から閉会の挨拶があり、開所式は盛会の内に幕を閉じました。なお、参加者は計168名となりました。

終了後ファカルティハウス「エンレイソウ」で開催された情報交換会では、長谷川晃理事・副学長から挨拶がありました。理事、部局長、兼務教員、大学院生など計33名が参加し、活発な情報交換が行われました。

(人間知・脳・AI研究教育センター)



笠原理事・副学長による挨拶



田口センター長によるセンター紹介



吉田助教による講演



山田グループリーダーによる講演



亀田教授による講演



特別講演の様子



長谷川理事・副学長による挨拶

札幌市、株式会社ニトリホールディングスと「みらいIT人財」育成のための連携協定を締結

7月24日（水）、本学は札幌市及び株式会社ニトリホールディングスとの間で「みらいIT人財」の育成を通じた札幌・北海道の一層の発展と飛躍を目指して連携協定を締結しました。

近年、我が国において、超スマート社会－Society5.0－の実現に向けた技術基盤の強化及び人財育成が急務となっています。札幌市は有数のIT産

業の集積地としてIT産業振興を推進しており、本学は文部科学省「数理及びデータサイエンスに係る教育強化事業」の全国6拠点のひとつに選定され最先端の数理・データサイエンス教育を推進しています。また、株式会社ニトリホールディングスは、先進的IT技術を活用して住まいの豊かさを世界に提供しています。これら3者が、地

域社会の課題をデータの力で解決し、みらいの社会を創造できる高度IT人財の育成を目指して、本連携協定が締結されました。

協定の有効期間は令和元年7月24日から5年間の予定です。

連携の内容は以下のとおりです。

- (1) データ駆動型の新しい社会デザインに資する研究の推進に関する事項
 - ・ 地域社会のリアルな課題に応える先端的IT活用の研究
 - ・ データサイエンスを活用した地域協働の推進
 - ・ データの力でみらいの社会を創造できる人財の育成
- (2) 大学、大学院におけるデータサイエンス等の高度情報科学分野の人財育成に関する事項
 - ・ 産官が保有するビッグデータを活用した高度な数理・データサイエンス教育の推進
 - ・ 未来社会の創造において核となる高度データサイエンス人財の育成と学習環境の構築
 - ・ 高度データサイエンスの知識や技術を持つ人財がグローバルに活躍できるような機会の創出
- (3) 小中高校生などの若年層に向けたIT人財育成に関する事項
 - ・ 先端技術並びにその実践的活用に関心を持つ高校生の意欲に応える学修支援環境の構築
 - ・ 小中高校生とその親世代を対象に、ITの力でアイデアを形にする面白さや、ITの持つ大きな可能性に触れる機会を提供

(数理・データサイエンス教育研究センター)



連携協定締結の様子（左から、笠原正典総長職務代理、秋元克広札幌市長、白井俊之ニトリホールディングス社長）



連携協定の概要を説明する長谷山美紀センター長

数理・データサイエンス教育研究センターに 株式会社ニトリホールディングスによる寄附講座を設置

8月1日(木)、数理・データサイエンス教育研究センターに、新たに寄附講座「ニトリみらい社会デザイン講座」を設置しました。

本寄附講座は、7月24日付けで札幌市、北海道大学、株式会社ニトリホールディングスの3者により締結した

「みらいIT人財」育成のための連携協定を推進することを目的として、株式会社ニトリホールディングスの寄附により設置したものです。我が国は超スマート社会-Society5.0-の実現に向けた取り組みを推進しており、本寄附講座は、数理・データサイエンス教

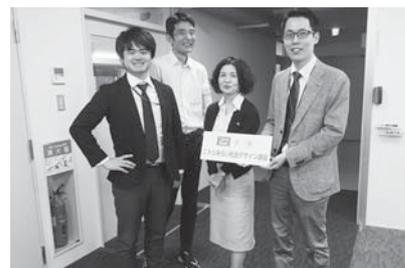
育研究センターが有するノウハウを活用して、高度データサイエンス人財の育成を図ります。

設置期間は令和元年8月1日から5年間を予定しています。

主な活動内容は以下のとおりです。

- (1) データ分析・データ活用等の研究活動を通じた人材育成
- (2) 株式会社ニトリホールディングス提供による講義やセミナーの実施
- (3) 札幌市の協力のもと、北海道大学にて実績のある高大接続の取組
- (4) グローバルセッション：No Mapsカンファレンス等におけるセッション
- (5) 社会人も含めて受講可能なデータサイエンスセミナーの実施

(数理・データサイエンス教育研究センター)



本寄附講座のプレート上掲式の様子

ソウル大学校法学専門大学院長等が法学研究科・法学部を来訪

7月18日(木)、大韓民国ソウル大学校法学専門大学院長の張勝和(Seung Wha Chang)教授と副院長で学術交流担当の權英俊(Kwon Youngjoon)教授が法学研究科を訪問されました。

ソウル大学校と本学は大学間交流協定を結んでいますが、法学研究科では、古い伝統を持ち、韓国随一のトップスクールである同大学校法学専門大学院と部局間交流協定の締結を目指して検討を進めており、当日は覚書の文案について調整を行うとともに、今後の交流のあり方について議論を交わしました。

韓国では、日本の法科大学院に相当する法学専門大学院を設置した場合、法学部を置くことはできませんが、法学専門大学院には、法曹養成を目的とするLaw School Programのほか、研究者養成を目的とするGraduate Programが設けられており、特に後者のプログラムには、実務家がスキルアップのた

め、あるいは博士号取得を目指して進学することも多く、ソウル大学校法学専門大学院は、まさに法学研究・法学教育の中心的な拠点となっています。

当日は、池田清治法学研究科長のほか、小名木明宏評議員、佐々木雅寿法科大学院長、そして、權教授と長らく交流のある曾野裕夫教授が懇談に参加し、崔碩鎮附属高等法政教育研究センター協力研究員が通訳にあたりまし

た。意見交換は和やかに進み、これまで教員の間で培った交流の実績をさらに深め、展開することとなりました。

懇談の後、両先生には、本学の美しいキャンパスを楽しんでいただきました。今後の両部局の一層の交流促進のため、非常に有意義な機会となりました。

(法学研究科・法学部)



記念撮影

医学部で創立100周年記念特別講演会を開催

7月27日（土）、医学部では、2019年4月に創立100周年を迎えた記念として、ノーベル生理学・医学賞受賞者の本庶 佑京都大学高等研究院副院長・特別教授を演者に迎え、特別講演会を開催しました。

本庶特別教授は「獲得免疫がもたらした驚くべき幸運」と題した特別講演の中で、これまで自身が手がけてきた

研究について振り返るとともに、がん治療の未来の可能性について語られました。

特別講演に引き続き行われたパネルディスカッション「医学研究の未来像～本庶先生にきく、次世代の医学研究・教育のありかた～」では、本庶特別教授及び各パネリストにより、次世代の医学研究・医師養成のあり方等に

ついて活発な討論が行われ、学生からも熱のこもった質問が寄せられました。

講演会当日、会場の医学部学友会館「フラテ」には約300名の医学部関係者・学生等が詰めかけ、満席の中で盛況の開催となりました。

（医学院・医学研究院・医学部）



講演を行う本庶特別教授



パネルディスカッション風景



医学部100期生から本庶特別教授への花束贈呈

北海道大学納骨堂慰霊式を挙行

医学研究院・医学院・医学部、歯学研究院・歯学院・歯学部、保健科学研究院・保健科学院・医学部保健学科、北海道大学病院では、7月31日（水）に北海道大学納骨堂（札幌市豊平区平岸）において、医学及び歯学の教育・研究のため尊い御遺体をささげられた

御霊の御冥福をお祈りする慰霊式を執り行いました。

慰霊式には、笠原正典理事・副学長、吉岡充弘医学研究院長・医学院長・医学部長、八若保孝歯学研究院長・歯学院院长・歯学部長、齋藤 健保健科学研究院長・保健科学院長・医学

部保健学科長、秋田弘俊北海道大学病院院長ら22名が参列し、参列者全員による黙祷及び献花を行い、厳粛のうちに慰霊式が終了しました。

（医学院・医学研究院・医学部）



参列者による黙祷



献花をする笠原理事・副学長



献花をする吉岡医学部長

獣医学部におけるEAEVE認証取得のための本審査の実施



集合写真（長谷川理事・副学長：2列目中央、堀内研究院長：2列目右から4番目）

獣医学部では、2012年から帯広畜産大学とともに共同獣医学課程を設置し、世界水準の獣医学教育の実施を目指してきました。我々の教育が国際的な水準にあることを担保するため、海外の獣医学教育評価機関による第三者評価を受けることを決め、EAEVE（European Association of Establishments for Veterinary Education）*の認証取得を目指し、教育改善に取り組んできました。今年7月8日（月）から12日（金）にEAEVEの本審査を受け、7月8日（月）から10日（水）は帯広畜産大学にて、7月11日（木）・12日（金）は本学で現地査察が実施されました。同審査では、EAEVE本部が任命した8名の獣医師等が欧州各国から集められ、サイトビジターとして来日しました。

本学部で実施された本審査では、長

谷川晃理事・副学長による挨拶と本学の紹介に始まり、多くの教育施設の視察や面接が行われました。サイトビジターは附属動物病院、実習室、及び動物実験施設などを視察し、時には厳しい質問をする場面も見られました。また、教職員、学生、卒業生に対するインタビューも行われ、本学部で行われている獣医学教育と運営の実態について審査されました。



スキルスラボを視察するサイトビジター

高まる緊張感の中迎えた最終日、サイトビジターから総評が発表され、2年前に実施された事前審査以降大きな改善がなされていたこと等が高評価を受けました。この度の本審査の結果は12月11日（水）のECOVE（European Committee of Veterinary Education）の会議で最終決定され、通知されます。

*EAEVEとは、欧州の獣医学教育実施機関が参加する協会であり、EU指令36/2005に基づく獣医学教育評価を行っている。EU及び周辺国における評価活動が中心であるが、その他の地域においても、大学からの評価依頼に基づき国による認識差を考慮した上で評価する。

（参考：文部科学省ホームページ）

◆http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/051/gijiroku/_icsFiles/afielldfile/2012/10/03/1326537_6_1.pdf

（獣医学部）



附属動物病院の調査（動画システムについて説明する滝口動物病院長：右）

先端生命科学研究院で教育環境改善FD研修会及び理学部オリエンテーション報告会を開催

先端生命科学研究院では、4月18日（木）に、シオノギ創薬イノベーションセンター・産学コミュニティホールにて、教育環境改善に係る2つのFD研修会及び、理学部2年次の学外オリエンテーション報告会を開催しました。

（1）FD研修会「ハラスメント防止のために」

北海道大学ハラスメント相談室専門相談員・佐藤直弘氏に講演いただきました。学生生活における勉強や生活の安全を脅かすハラスメントのない健全な環境作りとして教員が注意すべき点や予防について概要を説明いただきました。会場での質疑応答では弁護士・上田絵里氏にも参加いただき、教員の言動や学生の受け取り方、LGBT関連の対応などについて意見交換が行われました。



FD研修会「ハラスメント防止のために」
佐藤氏（左）・上田氏（右）

（2）FD研修会「学修支援システムとしての新渡戸ポートフォリオ」

理学部・生命科学院では、教育環境のICT化のため、2017年に新渡戸ポートフォリオ（理学生命科学版）を導入しました。今回、高等教育推進機構・特任助教／新渡戸カレッジ授業支援・ICT支援担当の今井匠太郎氏に講演いただき、新渡戸ポートフォリオのバージョンアップ、中期目標に沿った部局展開について説明いただきました。TA機能の充実、毎回の授業評価、グループ活動の教員チャット機能など部局での利用法について質問が交わされました。

（3）理学部2年学外オリエンテーション報告会

総合教育部から学部学科移行した理学部2年次進級生が学生同士の交流や教員との親睦を図るための学外オリエンテーション報告が理学部生物科学科（高分子機能学）出村 誠学科長から

行われました。4月12日（金）に行われたオリエンテーションでは、理学部生物科学科（高分子機能学専修分野）の2年生全員、3年生クラス代表、及び教務・行事担当教員が札幌芸術の森の施設利用のため、大型バスで移動し、午前中は工芸館の体験、昼食後にはアートホールで名前ビンゴ、教員写真を使ったゲームなどでクラスの友好を深めました。夕刻からは北大中央食堂で学科の3年生、研究室の教員が集合し、2年生の歓迎会を行いました（詳細はこちら <https://life.sci.hokudai.ac.jp/mf>）。

最後に、理学部2号館正面玄関のデジタルサイネージ掲示案内に、理学部SDGsチャンネルが追加され、各学科の活動への利用が可能になったことも併せて紹介がありました。研修会及び報告会への参加者は35名でした。

（理学部・生命科学院・先端生命科学研究院）



FD研修会「学修支援システムとしての新渡戸ポートフォリオ」今井氏



理学部2年学外オリエンテーション報告会

第4回保健科学研究院国際シンポジウムを実施

7月5日（金）、保健科学研究院にて第4回国際シンポジウム（The 4th FHS International Conference, FHS 2019）を開催しました。保健科学研究院（Faculty of Health Sciences, FHS）が主催する国際シンポジウムは2013年から隔年開催しており、第4回目を迎えました。参加者数は、前回の250名からさらに増えて270名余りとなりました。今回は、協定校として台北医学大学からDr. Cia-Hwa Lee、高雄医学大学からDr. Chien-Chih Ke, Dr. Yeou-Lih Huang, Dr. Shih-Fen Hsiao, チュラロンコン大学からDr. Chitanongk Gaogasigam, Dr. Thititip Tippayamontri, Dr. Sujitra Boonyong, 香港大学からDr. Denise Shuk Ting Cheung, 中国科学院大学からDr. Wen-Jun Dingを招待した他、保健科学研究院から大久保寅彦講師、千見寺貴子准教授、学術研究員の佐井旭さんの計12名による講演会を実施し、看護学、臨床検査学、放射線医学、理学・作業療法学、国際保健学といった広範な保健医療分野をカバーするシンポジウムになりました。

講演に加えて、第2回国際シンポジウム（FHS 2015）から恒例となって

いる、大学院生による一人1分間の口頭ポスター紹介（「ショットガン・プレゼンテーション」）に続いて、ポスター発表が行われ、77題のポスターが、保健科学研究院E棟1階の多目的室に所狭しと張り巡らされました。午前と午後それぞれ90分に及ぶポスターセッションは終始活気に溢れ、大学院生は懸命に英語で自らの研究を招待研究者に説明し、活発なディスカッションが行われました。大学院生が海外で開催される国際学会に参加する機会に限られており、本国際シンポジウムは大学院生にとって大変貴重な機会です。この経験を今後の研究活動に活かしてもらいたいと期待しています。

シンポジウム終了後の立食パーティーでは、アットホームな雰囲気の中、国内・海外からの招待講演者、保健科学

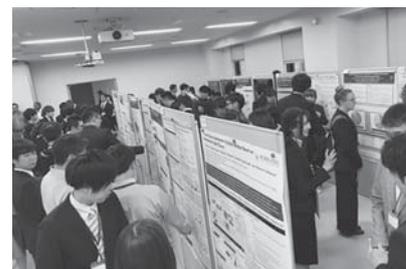
研究院の教員、大学院生が交流を深めました。その中で、ポスター発表の大学院生に贈られる「Best Presentation Award」の発表があり、宮尾珠央さん（生体量子科学M2）、高 紫君さん（健康科学M1）の2名が受賞しました。

最後に、本シンポジウムの開催にあたり、海外からの招待講演者各位、座長及び発表を引き受けていただいた保健科学研究院の教員の方々、当日及び準備にご尽力いただいた国際交流専門部会員及び事務の方々、保健科学研究院長をはじめ参加いただいた教員、大学院生、学部生の皆様に感謝申し上げます。

（保健科学院・保健科学研究院）



講演の様子



ポスターセッションの様子

薬学部で第22回生涯教育特別講座夏季講演会を開催

7月5日（金）、薬学部臨床薬学講義室において生涯教育特別講座・夏季講演会を開催し、薬局や病院などの薬剤師の方々をはじめ、薬学部学生や教員等75名が参加しました。

薬学部生涯教育特別講座は、北大薬学部同窓生を含む医療関係及び関連領域の仕事に従事される方を対象に、医療における諸問題について最新の情報を提供することを目的として実施しています。

今回は群馬大学大学院医学系研究科臨床薬理学分野教授／群馬大学医学部附属病院薬剤部長の山本康次郎先生に「大学病院における薬剤師卒後教育」と題して講演いただきました。

講演では、大学を卒業したばかりの

薬剤師の人材育成を中心に、医学教育も絡めながら、大学病院の役割と実情、近年注目されているレジデント制度などについて、地域の特色や紹介も交えつつ大変わかりやすく解説してくださいました。会場からは様々な質問が寄せられ、活発な議論が行われました。「レジデントが様々な教育制度を

クリアして社会に出ることが分かりました」「大学病院の実情がそれぞれ各県によって違うことが分かり、北海道からすれば群馬は未知の県だったので新鮮でした」など多くの意見が寄せられました。

（薬学部）



講師の山本先生



会場の様子

令和元年度第1回農学研究院FD研修会を開催

農学研究院では、7月12日（金）、農学部大講堂において、令和元年度第1回FD研修会を開催しました。西邑隆徳農学研究院長の挨拶の後、「アクティブラーニングを通じた授業改善について」をテーマに、高等教育推進機構の山本堅一特任准教授による講演会が行われました。

研修会は「教員がアクティブラーニング（AL）をどういうものと認識しているか、自分たちの講義にALをどのように取り入れているか」ということを、ALの研修会らしく教員同士が少人数グループで話し合い、発表することから始まりました。ALでは教員が一方的に講義をしない、ALとはグループディスカッションなど授業中に学生が何らかの活動を行う授業であ

る、ALでは知識教授の時間を減らし、学生の満足度を高めるだけの授業であるなど、間違っって認識されていることがあるが、本来ALとは「学生の主体的な学習またはそれを促す授業」であることが説明されました。さらに、ALを授業に取り入れるためには、「総学習動機量」を正の値にし、学生の授業への没頭度を高めることが重要であることを学びました。山本特任准教授が提唱する総学習動機量とは、学生側、教員側にそれぞれに潜在する学習動機を促す正と負の要因の総和であり、これを正の値とするための学生の学習意欲の仕組みについて、また教員側の教授法の工夫や適切なフィードバックが学生への動機づけにつながるなどについて説明があり

ました。最後には、AL授業を実践するための簡単な参考例を、大人数講義型授業と少人数講義型授業に分けて、解説いただきました。また時間に限りがあるなかでの質疑応答でも、AL学習を苦手とする学生への対処法などを、例を挙げて丁寧に説明いただきました。

参加した教員68名は、熱心に講演に聴き入り、今後の授業改善また教育活動に役立つ有意義なFD研修会となりました。

ご講演いただいた山本特任准教授には、この場を借りて改めてお礼申し上げます。

（農学研究院）



山本特任准教授による講演



教員間でのディスカッションの様子



質疑応答の様子

農学院で「留学生オリエンテーション」を開催



富良野チーズ工房での集合写真



富良野チーズ工房で説明を受ける留学生

7月17日（水）、農学院留学生オリエンテーションを開催しました。農学院留学生オリエンテーションは留学生主催の新年会とともに約30年以上続いており、今年は10か国・地域からの留学生31名と教職員5名が参加しました。午前中は、富良野市にある富良野チーズ工房においてチーズの製造について説明を受け、製造工程を見学しました。その後、ふらのワイン工場に移動し、ワインの製造工程や熟成庫を見

学しました。最後にファーム富田に移動し、ラベンダーをはじめとする富良野特有の様々な花を觀賞しながら、写真撮影等を楽しみました。

今回は富良野の雄大な自然に囲まれながら、北海道の特色ある農業について学び、更に、国・地域や研究室の枠を超えて幅広く交流でき、留学生にとって充実した1日になりました。

（農学院）



ファーム富田での記念撮影

メディア・コミュニケーション研究院公開講座「ロシアとロシア人のアイデンティティ」が終了

メディア・コミュニケーション研究院では、2019年度公開講座「ロシアとロシア人のアイデンティティ」を6月6日（木）から7月4日（木）の毎週木曜日、全5回にわたり実施しました。

内容は、ロシアの建国と建国伝説、ロシアとウクライナの分裂の歴史的原因、ロシア歴史学の出生の特徴、ロシア特殊性論の三つのバリエーション（地理的特殊性論、社会的特殊正論、国家的特殊正論）、ロシア・プラトニズムとロシア・オカルティズムの思想的特徴、そして最後に、ソ連崩壊を生きた市民たちの体験とソ連崩壊の世界的影

響、等々です。

応募者多数のため抽選によって選ばれた50人に参加いただくこととなりましたが、毎回多数の方に出席いただき、講義内容も参加者の方々から大変好評で、充実した公開講座となりました。



講義中の様子

た。今回の講座は、ロシアという国への知識や興味を深めていただく良い機会となったように思います。

（メディア・コミュニケーション研究院）



修了証書授与式の様子

スラブ・ユーラシア研究センター国際シンポジウム 「民主主義の世界的危機？ 権威主義とポピュリズムの台頭と進化」 開催

スラブ・ユーラシア研究センターは、7月4日（木）・5日（金）に、本年度の夏期国際シンポジウム“Global Crisis of Democracy? The Rise and Evolution of Authoritarianism and Populism”を開催しました。これは科研費基盤研究（A）「権威主義とポピュリズムの台頭に関する比較研究」（代表：宇山智彦）を中心とし、同基盤研究（B）「ポストネオリベラル期における新興民主主義国の経済政策」（代表：仙石 学）も協力しながら企画されたものです。

権威主義とポピュリズムの台頭は今日の世界政治の中で大きな注目を集めている現象ですが、両者の間にどのような関係があるのか、これらが世界全体あるいは先進国の民主主義にもたらす脅威はどの程度なのかについては見方が分かれています。今回のシンポジウムでは、1990年代からラテンアメリカと東欧のポピュリズムを研究しているクルト・ヴァイラント氏、世論調査など大量のデータを駆使して政治的価値観の長期的変化や政治体制とガバナンスの関係の変化を論じているロベルト・ステファン・フォア氏、ロシアと中国の権威主義体制を新しい観点から比較しているキャサリン・オーウェン氏といった論客を多く集めました。対象地域は欧米、中国、日本、ラテンア

メリカなどを含みましたが、報告の約半数は旧ソ連・東欧諸国に関するものでした。これは、旧ソ連・東欧がセンターの研究対象であるというだけでなく、再権威主義化や「非リベラル民主主義」化の例を多く提供している地域であることに由来しており、旧ソ連・東欧研究が比較政治学の中で果たすべき重要な役割が再確認できました。

1日目は第1セッション「ポピュリズム実証分析のアプローチと展望」、第2セッション「旧ソ連諸国における権威主義と国内・国際政治」、第3セッション「権威主義の源泉と統治能力」、2日目は第4セッション「ロシア・中国の権威主義体制とその変化」、第5セッション「南北アメリカ・中東欧のポピュリズムの比較」、第6セッション「ポピュリズムと経済政策」を開き、総合討論も行いました。

シンポジウムの論点は、概念の定義



バルト諸国の政治に関する報告

や研究の方法論から、具体的な国・地域での特徴的な現象に至るまで多岐にわたりましたが、全体としては、政党の役割が行き詰まってリーダーシップが個人化する傾向が多くの中に見られることを指摘しつつ、それを政治家個人の問題として片付けるのではなく社会全体や国際社会との関わりの中で検討する報告が多くなされました。参加者の意見も多様でしたが、権威主義とポピュリズムの台頭の原因に関して、経済危機や各国の文化的背景による安易な説明を避け、安全保障、主権、歴史的経験といった問題とも関連づけて緻密に分析すべきであることについては、概ね共通理解が形成できたように思います。参加者は実数で79人、2日間の延べ人数で125人にのぼり、活発な議論が行われました。

（スラブ・ユーラシア研究センター）



活発な質疑

総合博物館で学生企画・展示解説イベント 「みんなの博物館物語—選ぶ・語る・描く—」を開催

大学院共通授業科目である「博物館コミュニケーション特論 学生発案型プロジェクトの企画・運営・評価」の授業の一環として、大学院生13名が、展示解説イベント「みんなの博物館物語—選ぶ・語る・描く—」を開催しました。多様な来館者を対象とし、7月6日(土)・13日(土)の2日間、同じ内容で実施しました。

このイベントの目的は、博物館に初めて来館された方にも何度も来館されている方にも、学生の視点を通じた解説によって、「新しい博物館の見方を伝えること」です。この目的を達成するため、学生達は4月から議論を重ね、各自の研究の専門分野や関心事に関する解説を準備しました。ご紹介した内容は、古生物学や地球惑星科学、植物分類学、動物形態学の他にも、博物館の建物、植物標本を挿んでいた古い新聞紙、顕微鏡、本学の寮歌の歴史、ミュージアムのショップとカフェなど多岐にわたります。更に、一方的に解説を伝えるのではなく、「来館者

と対話すること」を目指しました。

学生達は参加者用に冊子を用意し、そこには、このイベントの趣旨と博物館の紹介、解説する学生のテーマとプロフィール、そして参加者自身に心に響いた展示や空間の印象を綴っていた。館内の白地図を示しました。他にも解説者の関心事などに合わせてデザインした13枚の異なるオリジナルシールを解説後に配布し、冊子に貼るスペースも用意しました。参加者は、まず、解説を聞きたい学生を「選ぶ」ことから始め、学生の解説を聞いて学生と「語る」時間を過ごしていただき、そして、白地図に思いを「描く」一日を過ごしていただきました。

解説の最後には、ゴールに設定したエリアに戻っていただき、来館回数や参加動機など属性を伺い、感想や意見を聞き取り、描かれたマップを写真撮影しました。2日間で約200名が参加し、学生達との対話を楽しんで下さいました。「解説者のおすすめポイントや面白いポイントを聞くことで、より

深く展示物を見ることができるようになった」「北大生の解説を聞いて面白かったし、皆よく勉強していると思った」「大学院生の研究を知るよい機会になった」という意見が聞かれ、学生達は手応えを感じたようです。彼らは今後、参加者がマップに描いた思いや、語って下さった意見と感想、学生自身の参与観察の結果などのデータを整理し、このイベントの意義と課題を検討していきます。

今回の企画では、企画の趣旨を伝えたり、各学生の解説内容を伝える紹介動画を4編制作し、博物館の公式チャンネルを開設して、新たな広報活動に挑戦したことも、特筆すべき取り組みとなりました。

イベントを企画・運営する授業のプロセスを伝える学生の記事を、次のURLで公開しています。

◆<https://www.museum.hokudai.ac.jp/education/museummeister/cat/lesson/communication1/>

(総合博物館)

担当学生：宇都幸那（環境科学院）、片岡奈々（農学院）、小早川岳大（情報科学院）、大下虎太・小田嶋元哉・下田農人・鈴木侖音・谷口加奈子・中村仁哉・葉柴隆斗・和田壮平（理学院）、杉浦千瑛（医学院）、森本智郎（生命科学院）

協力：首藤光太郎・柴野伸幸・植物及び図書ボランティア（総合博物館）
指導教員：湯浅万紀子（総合博物館）



参加者に配布した冊子とシール



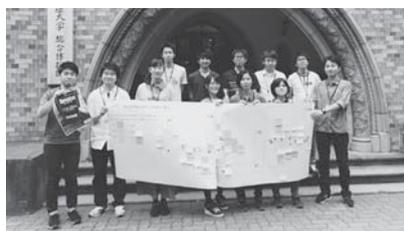
古生物についての解説



アインシュタインドームを解説



寮歌の歴史を解説



イベントを企画運営した大学院生



ゴールでは感想を聞き取る

学生によるミュージアムグッズの企画開発

大学院共通授業科目である「博物館コミュニケーション特論 ミュージアムグッズの開発と評価」の授業では、毎年、学生達による総合博物館オリジナルのミュージアムグッズが企画開発されています。2018年度のこの授業では、3つのグループがそれぞれ新しいグッズを開発しました。

1つめは、「総合博物館タンブラー」で、2名の大学院生と1名の学部生が企画開発しました。表と裏それぞれに「標本ラベル」と「研究者のトランク」のデザインが印刷されているため、気分にあわせてデザインを選ぶことができます。どちらも総合博物館らしいシックなデザインに仕上がりました。

また、学生達のアイデアはカフェとの連携企画に発展しました。本タンブラーには「ミュージアムカフェぼらす」でご利用いただける無料の1ドリンク券（コーヒーまたはカフェラテ）がついており、同カフェでこのタンブラーを利用すると、毎回、コーヒーまたはアイスコーヒーの増量サービスを受けられます。価格は1,000円＋消費税で、ミュージアムショップぼとろで

発売中です。タンブラーの開け方・飲み口については注意事項をお読み下さい。

2つめは、巾着「まなびのむすび」で、5名の大学院生が企画開発しました。「まなびのむすび」という名称には、学びの場として総合博物館を見学していただいた終わり（まなびのむすび）にショップで巾着を選んで持ち帰っていただき、巾着を使用することで、来館者と制作した学生、来館者と総合博物館を結びたいという思いが込められています。

デザインは次の3種類です。1つめは海藻分類学の拠点である総合博物館の貴重なコレクションとその歴史ある研究の一端をご紹介したいと、海藻標本をモチーフにその色も意識したデザイン。2つめは研究の成果だけでなく、その営みに思いを馳せていただきたいと、古生物学を例にして研究の始まりを道具で表現したデザイン。そして、3つめは1909年に建造された歴史ある博物館の建物のなかでも印象深いアインシュタインドームの4点のレリーフをモチーフにしたデザインです。博物館での時間を思い出していた

だきながら、皆様それぞれの「まなびのむすび」の使い方を見つけていただければ幸いです。価格は各450円＋消費税で、こちらにもミュージアムショップぼとろで発売中です。

また、ショッパー（通常版とギフト用（有料））も開発しました。グッズと同様、ショッパーはショップ展開の大事な要素です。総合博物館らしいショッパーを実現しようと、5名の大学院生が、博物館のイメージ調査をもとにデザインしました。シンプルながら一目で総合博物館と分かり、大事にとっておきたくなる、そしてプレゼント用にラッピングしたくなる仕上がりです。この5名はまた、学生企画グッズのロゴもデザインしました。「鉱物蠟燭」をはじめ、この春以降に販売開始した学生企画グッズには、このロゴが配されています。ショップに並ぶ魅力ある多数のグッズのなか、ぜひこのロゴのついたグッズにも注目していただきたいと思います。

（総合博物館）

2018年度理学院専門科目・大学院共通授業科目

「博物館コミュニケーション特論 ミュージアムグッズの開発と評価」

■総合博物館タンブラー

担当学生：遠藤 優（理学部）、清水美帆（工学院）、楊 朝暉（文学研究科）

監修者・協力者：江田真毅・大原昌宏・山本順司（総合博物館）

指導教員：湯浅万紀子（総合博物館）

■「まなびのむすび」巾着 海藻・研究道具・建物

担当学生：相澤明香里（環境科学院）、神田いずみ（文学研究科）、雲中 慧・鈴木 花・山本茉奈（理学院）

監修者：阿部剛史・小林快次（総合博物館）、池上重康（工学研究院）

指導教員：湯浅万紀子（総合博物館）

■ショッパー及び学生企画グッズロゴ

担当学生：野瀬紹未・近藤喜十郎（文学研究科）、安藤瑞帆・細谷祥央・濱崎瑠菜（理学院）

指導教員：湯浅万紀子（総合博物館）



「総合博物館タンブラー：標本ラベル」



3種類（道具・海藻・建物）の巾着と解説シート



「総合博物館タンブラー」を開発した大学院生と学部生



「まなびのむすび」(巾着)を開発した大学院生



ショッパーと学生企画ロゴを開発した大学院生

国立東華大学（台湾）との国際合同実習「International training course of ecosystem and environment science」を開催

本学と台湾の国立東華大学との大学間交流協定（2017年6月締結）による交流事業の一環として、大学院生（修士）を対象とした合同実習を、7月3日（水）から11日（木）まで、札幌キャンパスと北方生物圏フィールド科学センター植物園及び雨龍研究林にて開催しました。この実習は、本学サマーインスティテュートとしても実施され、両大学より計15名（うち本学から6名）の大学院生が参加し、両大学の教員が合同で企画・指導にあたりました。参加者の出身国は多様で、台湾・中国・タイ・チェコ・セントビンセント及びグレナディーン諸島・インド・日本の7か国でした。また、本学から北方生物圏フィールド科学センター／環境科学院の柴田英昭教授、地球環境科学研究院のRam Avtar助教を含む計7名、国立東華大学からMing-

Chien Su教授を含む計3名の教員が指導にあたりました。

実習では、生態学や環境科学についての室内講義・グループ学習・野外実習を中心に、ドローンやGISに関する技術講習も行いました。植物園では、園内の見学に加えて試料保管や希少植物保全の取り組み等について、雨龍研究林での野外実習では、植物フェノロジー・植物と昆虫の相互作用・土壌や養分の空間変化等に関する調査法を体験し研究アプローチやデータ解析の方法について学びました。また、グループ学習では、4つのグループに分かれ、実習を通じて学んだことを元にそれぞれのテーマに沿った研究計画作成のトレーニングを行い、最終日にその発表会を開催しました。参加院生は積極的に実習に取り組み、有意義な成果が得られている様子でした。

なお、本実習は、本学に設置されているGlobal Land Programme（GLP）日本拠点オフィスとも協力して実施しており、また、環境科学院「フィールド科学特別実習Ⅰ」の一環ともなっています。

（北方生物圏フィールド科学センター、
環境科学院・地球環境科学研究院）



野外実習にて河畔林に生息する昆虫を調査する様子（雨龍研究林）

静内研究牧場の短角牛肉を販売

7月7日（日）、新ひだか町で行われた「第25回みついし蓬萊（ほうらい）山まつり」において、北方生物圏フィールド科学センター耕地圏ステーション静内研究牧場で飼育された短角牛（日本短角種）の牛肉を販売しました。短角牛は、夏季は傾斜牧草地に放牧し、冬季は場内で自給した貯蔵飼料を与えるという粗飼料主体の牛肉生産システムに適した品種で、脂肪分が少ないヘルシーな赤身肉が特徴です。

当日は、新ひだか町内の精肉店で加工されたサーロイン、ヒレ、リブロース、ハンバーグ等を午前10時から販売

し、用意した1頭分の牛肉が正午には全て完売となる好評ぶりです。来場者は購入した牛肉を会場内に用意された焼肉コーナーで早速味わっていました。また、会場内に設置されたステージでは、来場者に向けて、静内研究牧場の活動内容及び短角牛の特徴についてのPRも行いました。

静内研究牧場では、これまでも地元・新ひだか町を中心とした日高管内の小中学生を対象に、家畜の飼養管理や食育をテーマとした教育活動を行っていますが、今後も多くの方々に短角牛の存在を知っていただき、また、

短角牛肉を味わっていただくことで、ますます地域に貢献できるよう取り組んでいきたいと考えています。

（北方生物圏フィールド科学センター）



販売ブースの様子

北海道大学病院で夜間想定防火訓練を実施

北海道大学病院では、7月23日（火）、夜間に火災が発生した場合を想定した防火訓練を実施しました。

今回の訓練は8階東側病棟の給湯室から出火したことを想定したもので、参加した医師、看護師らは真剣な面持ちで、通報連絡、初期消火及び模擬患者の避難誘導の訓練に取り組みました。

病院は常に患者さんの安全を守る立場にあることから、訓練の重要性を再確認する機会となりました。

（北海道大学病院）



搬送される模擬患者



消火器訓練の様子

北海道大学病院で「第60回ふれあいコンサート 七夕の夕べ」を実施

北海道大学病院では、7月25日（木）、病院アメニティホールにおいて「第60回ふれあいコンサート 七夕の夕べ」を開催しました。毎年、患者サービス推進委員会が中心となって色々な企画をしていますが、今年も、盛りだくさんの内容となりました。

コンサートの開演前から行われる縁日コーナーでは、入院中のお子さんが

輪投げやヨーヨー釣り等を楽しみ、バルーンアートを手にして、アメニティホールに集まりました。

「早く元気になるように」などの患者さんの願いが込められた短冊が涼やかな雰囲気を醸し出す中、コンサートは秋田弘俊病院長の挨拶で開幕しました。

今年も本院内科 I の庄司哲明医師に

よるオペラ歌唱が披露されたのに続いて、男声合唱団ススキーノによる唱歌メドレーが披露され、会場は大変盛り上がりしました。

最後に、高橋久美子看護部長の挨拶で、北海道大学病院の夏の風物詩である「七夕の夕べ」は幕を閉じました。

（北海道大学病院）



縁日の様子



庄司医師によるオペラ歌唱



男声合唱団ススキーノによる合唱

フィンランドをテーマとした図書展示を開催

6月3日（月）から7月12日（金）にかけて、附属図書館（北図書館）において、「第4回北海道大学フィンランドデー：関連資料展示」を開催しました。

これは、北海道大学欧州ヘルシンキ

オフィスの主催により6月15日（土）に開催されたイベント「第4回北海道大学フィンランドデー：みんなで夏至祭を楽しもう！」との連動企画として開催したものです。

北図書館での展示も4回目となり、

フィンランドにまつわる資料142点を紹介者のオススメコメントとともに展示し、62点が延べ98回貸出されました。

（附属図書館）



図書展示の様子

医学部附属医院薬局長酒井隆吉，農学博士酒井隆太郎の関係資料を大学文書館で受贈

7月18日（木）・19日（金），大学文書館では，森枝かつら様から，ご祖父酒井隆吉氏，ご尊父酒井隆太郎氏の関係資料をご寄贈いただきました。

酒井隆吉（1889-1934年）は，1915（大正4）年に東京帝国大学医科大学薬学科を卒業し，陸軍の薬剤官，県立熊本病院薬剤部長，私立熊本医学専門学校や熊本県立医学専門学校の教授を歴任しました。1921年9月，北海道帝国大学医学部附属医院の開院にあたり薬局長兼助教授として着任し，附属医院薬局の創設にあたります。1927（昭和2）年から3年間，臓器薬品化学研究のためドイツに留学しベルリン大学などで学ぶとともに，ヨーロッパ各地の病院薬局を視察しました。附属医院薬局では薬剤業務のみではなく，事務的手腕も発揮し事務官も兼任しますが，1934年に在職のまま逝去されました。

ご寄贈いただいた酒井隆吉の関係資料は，日記，学生時代のノート，ドイツ留学時代の絵はがき，辞令類，記念品，初代総長佐藤昌介の書，当時の医学部長今裕の絵・色紙などです。附属医院薬局長としての活動の幅広さを示す多種に及ぶ資料です。

酒井隆太郎（1921-2019年）は，酒井隆吉の子息です。1942年に農業技術を主に学ぶコースである農学実科を卒業し，戦後改めて農学部農学生物学科を1950年に卒業しました。農林省北海道農業試験場，同省農業技術研究所で研究に従事し，その後に帯広畜産大学教授を務めました。1960年には論文「馬鈴薯疫病菌の培養に関する栄養生理学的研究」で北海道大学から農学博士号を取得しています。

ご寄贈いただいた酒井隆太郎の関係資料は，学生手帳，時間割，催し物のプログラム，実験記録ノート，卒業論

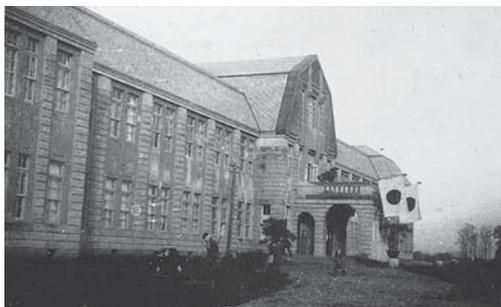
文，辞令類，写真などです。戦中から戦後に掛けての学生生活を示す貴重な資料です。

今後，受贈資料は，大学文書館で大切に保存し，利用して参ります。

（大学文書館）



酒井隆吉肖像画



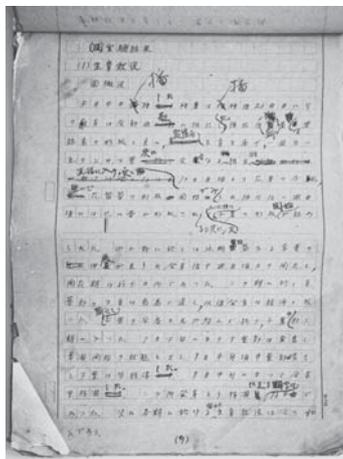
医院開院時の建物外観（1921年）



医院開院時の薬局内部（1921年）



酒井隆太郎の農学実科生徒手帳（1941年）



酒井隆太郎の農学部卒業論文「馬鈴薯生育期間中に於ける莖葉部の窒素化合物の消長に就て」原稿（1950年）

中谷宇吉郎書画を大学文書館で受贈

7月23日（火）、大学文書館では、井上一彦様から、中谷宇吉郎博士の墨筆による書画4点をご寄贈いただきました。書画は中谷宇吉郎博士（1900-1962年）の門下生である中山久子氏に贈られたもので、ご令甥の井上様が大切に保管されてきました。

中山久子氏（1914-2011年）は、日本女子大学校を卒業後、1938（昭和13）年理学部物理学科に入学、中谷宇吉郎教授主宰の実験物理学教室で学生生活を送られました。1941年物理学科を卒業後、低温科学研究所の助手

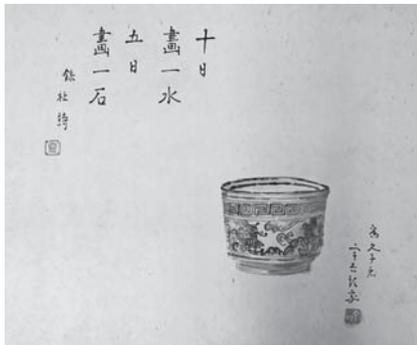
（1944～1949年）を務め、中谷教授のもとで霧の研究にも携わりました。

今回、受贈した資料は、讃に「十日画一水 五日画一石 録杜詩」とある水墨画が1点（扁額）、菊の華が描かれた御礼状が1点（木製額仕立て）、コスモスの花が描かれた御礼状（1941年）、石鯛を描いた水墨画が1点です。いずれも墨の濃淡が美しい書画です。

コスモス・石鯛の描かれた水墨画は、今秋、「北大フロンティア基金」により、額装幀を施す予定です。

また、8月4日（日）から、大学文書館1階の沿革展示室において、企画展示「北大における女性自学から男女共学へ——新制大学70年」を開催しています。同展示中、「女子学生の誕生！～理学部・農学部・大学院～」のコーナーで、早速、今回ご寄贈いただいた菊の華の水墨画を陳列しました。平日（9：30～16：30）の開館時間内で、ご覧いただけます。

（大学文書館）



十日画一水 五日画一石



菊の華



コスモスの花



石鯛

■お知らせ

被扶養者の要件の確認

「被扶養者の要件の確認」を本年9月中に行います。

については、認定されている被扶養者の認定条件に必要な添付書類を9月上旬に確認が完了するよう早期に手配し、被扶養者申告書とともに所属している部局等の共済事務担当係へ提出願います。

なお、被扶養者申告書に現在使用中の組合員証等の添付は不要です。

また、国家公務員共済組合連合会より送付される「ねんきん定期便」が届くよう、被扶養者申告書の住所を確認し、変更がある場合は、速やかに届出ください。

おって、「被扶養者の要件の確認」の詳細は各学部等の共済事務担当係にお問い合わせください。

(文部科学省共済組合北海道大学支部)

■レクリエーション

教職員テニス大会の開催

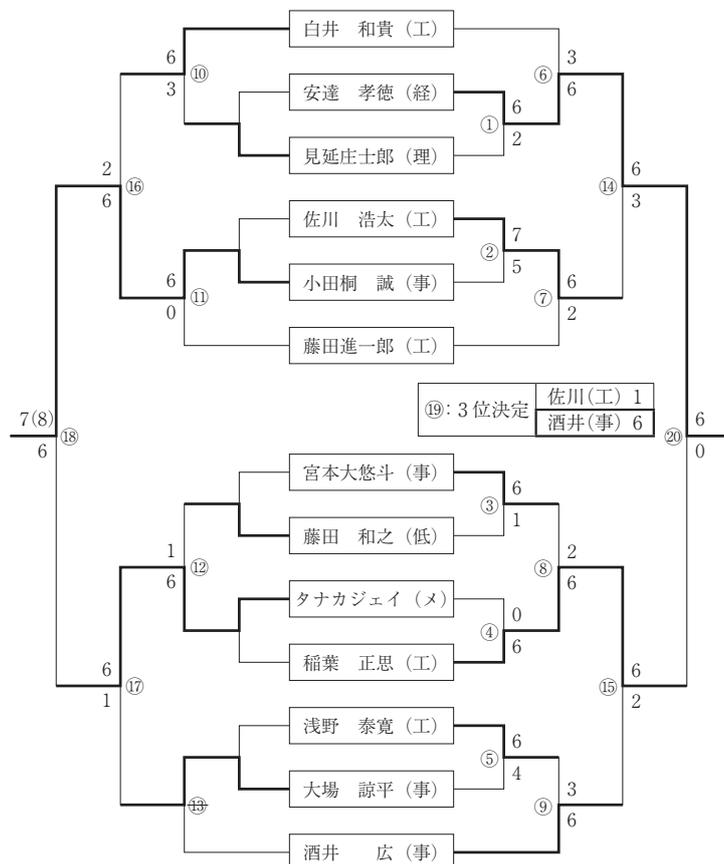
7月6日(土)、工学部・農学部・低温研の各コートで職員硬式庭球同好会主催により、シングルス大会を開催しました。参加者は総勢23名で、結果は次のとおりです。

(職員硬式庭球同好会)

【男子A級】 会場：工学部コート

コンソレ

本戦

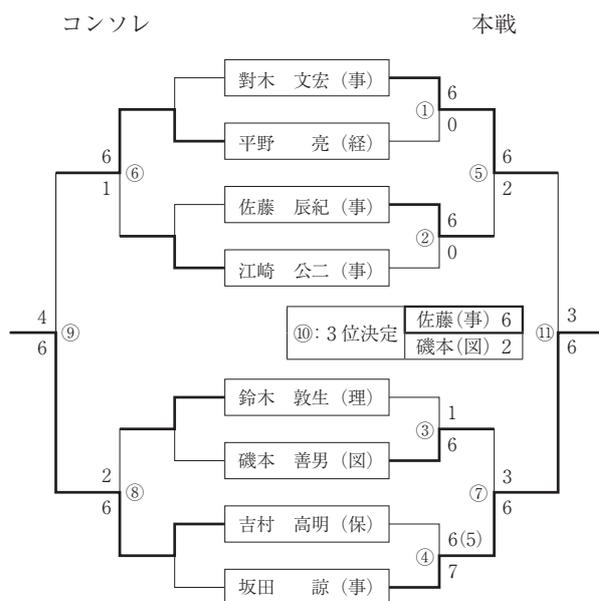


優勝	安達 孝徳 (経)
準優勝	稲葉 正思 (工)
3位	酒井 広 (事)
コンソレ優勝	小田桐 誠 (事)



男子A級優勝(中央)、準優勝(左)、3位(右)

【男子B級】 会場：低温研コート



男子B級優勝 (中央), 準優勝 (左), 3位 (右)

【女子BC級】 会場：農学部ハードコート



優勝	西川はつみ (低)
----	-----------



女子BC級優勝 (左), 準優勝 (右)

学内教職員バドミントン大会（個人戦）の開催

学内教職員バドミントン大会（個人戦）が、7月8日（月）から7月12日（金）まで本学第2体育館において開催され、連日熱戦が繰り広げられました。

なお、試合結果は次のとおりです。

（職員バドミントン部）

令和元年度学内職員バドミントン大会（個人戦）対戦表

◆ Aクラス

NO	氏名	所属	HC					順位
				1 西村 匡史 鈴木 裕樹	2 外岡 卓也 海老田憲人	3 杉本 拓也 山西 裕大	4 細木 直大 川端さおり	
1	西村 匡史	メディア・観光学事務部	0	△	×	×	×	4
	鈴木 裕樹	施設部施設企画課			16-21	19-21	17-21	
2	外岡 卓也	病院管理課電気係	6	○	△	○	×	2
	海老田憲人	病院管理課機械係		21-16		21-15	18-21	
3	杉本 拓也	工学系事務部経理課	13	○	×	△	×	3
	山西 裕大	病院管理課医薬品係		21-19	15-21		11-21	
4	細木 直大	財務部主計課財務管理室	8	○	○	○	△	1
	川端さおり	理学・生命科学事務部事務課		21-17	21-18	21-11		

※HC（ハンディキャップ）は、対戦相手ペアに与えるポイントです。

※試合は、対戦相手ペアのHCと相殺されたポイントからスタートします。

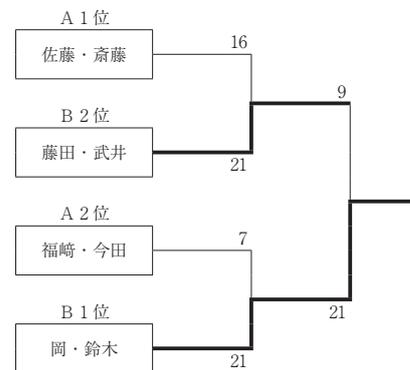
◆ Bクラス

Aブロック

NO	氏名	所属				順位
			1 佐藤 陽亮 斎藤 史明	2 福崎 陽介 今田 裕一	3 是安 晴樹 佐藤 彩乃	
1	佐藤 陽亮	低温科学研究所	△	○	×	1
	斎藤 史明	低温科学研究所		21-19	20-21	
2	福崎 陽介	施設部環境配慮促進課	×	△	○	2
	今田 裕一	ICReDD事務室	19-21		21-18	
3	是安 晴樹	調達課物品契約担当	○	×	△	3
	佐藤 彩乃	法学研究科庶務担当	21-20	18-21		

Bブロック

NO	氏名	所属				順位
			1 高原 周作 尾崎 渉	2 藤田 和之 武井 将志	3 岡 尚樹 鈴木 里奈	
1	高原 周作	財務部主計課	△	×	×	3
	尾崎 渉	財務部主計課		不戦敗	15-21	
2	藤田 和之	低温科学研究所	○	△	×	2
	武井 将志	電子科学研究所	不戦勝		16-21	
3	岡 尚樹	文学部	○	○	△	1
	鈴木 里奈	文学部	21-15	21-16		



◆ Cクラス

片山 則行	財務部主計課	20	21	上田しのぶ	学務部教育推進課
横山功太郎	財務部主計課			近藤 未央	学務部入試課
大場 諒平	学務部学務企画課	不戦勝	21	猪瀬 昌	病院管理課用度第二係
武田 三冬	学務部学務企画課			清水 優那	工学系事務部経理課経理担当
宮本大悠斗	総務企画部情報企画課	18	19	塩田 悠貴	学務部学生支援課学生総合担当
吉川 潤	総務企画部情報企画課			宮崎 健也	総務企画部人事課教員人事担当
佐藤 辰紀	財務部調達課	21	11	越前 圭伍	財務部主計課
坂田 諒	財務部調達課			橋本 操	財務部主計課
酒井 広	総務企画部企画課	21	10	小笠原麻美	総務企画部広報課
佐藤佳央理	学務部教育推進課			稲垣 智彦	国際部国際連携課
倉澤 佳央	財務部主計課	5	17	金子 拓真	工学系事務部総務課
諸田 美沙	財務部主計課			齊藤 花依	学務部学務企画課
渥美 裕介	財務部主計課	10	21	武井 智裕	財務部主計課
中山 琴絵	財務部主計課			佐野友里恵	財務部主計課
鎌田 慎平	工学系事務部経理課	不戦勝	21	今城 颯太	工学系事務部総務課総務担当
伊原 双葉	学務部学務企画課			大塚 美波	財務部調達課調達企画担当



各クラス入賞者

■ 諸会議の開催状況

役員会（令和元年7月8日）

- 議案・国立大学経営改革促進事業の申請について
- ・令和2年度医学部臨時定員増について
 - ・ASEANハノイオフィスの開設について
 - ・令和2年度（2020年度）概算要求の提出について
 - ・北海道胆振東部地震関連地震（平成31年2月）被災設備等への対応について
- 協議事項・株式会社ニトリホールディングス・札幌市との連携協定について
- 報告事項・全学運用教員の実施状況報告について
- ・電子購買システムの利用拡大に向けた取組の実施について
 - ・平成30年度内部監査報告について
-

役員会（令和元年7月11日）

- 議案・総長選考会議からの通知の報告及び総長の復帰の判断について
-

教育研究評議会（令和元年7月17日）

- 議題・経営協議会の学外委員について
- ・株式会社ニトリホールディングス・札幌市との連携協定について
- 報告事項・全学運用教員の実施状況報告について
- ・寄附講座等の設置について
 - ・令和元年度情報セキュリティセミナーの開催について
 - ・平成30年度決算について
-

役員会（令和元年7月22日）

- 議案・株式会社ニトリホールディングス・札幌市との連携協定について
- 協議事項・役員兼業（技術移転、研究成果活用、監査役）に係る審査体制の見直しについて
- ・就業規則関連規程の一部改正について
- 報告事項・超過勤務実績について
-

※規程の制定、改廃については、「学内規程」欄に掲載しています。

■ 学内規程

国立大学法人北海道大学国際連携機構規程の一部を改正する規程

（令和元年7月9日海大達第161号）

国際連携機構に、令和元年7月9日付けでASEANハノイオフィスを設置することに伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学数理・データサイエンス教育研究センター規程の一部を改正する規程

（令和元年8月1日海大達第162号）

数理・データサイエンス教育研究センターに部門を新設することに伴い、所要の改正を行ったものです。

■ 研修

研修名：令和元年度北海道地区国立大学法人等事務情報化講習会（Access研修 初級編）

開催期間：令和元年7月25日・26日

開催場所：情報基盤センター

研修目的：基本的な情報セキュリティ等の知識及びAccessを利用して業務システムのデータを活用するための知識を習得すること



研修の様子

■ 人事

令和元年7月7日付発令

新 職 名（発令事項）	氏 名	旧 職 名（現職名）
【課長・事務長・室長】 （転出） 文部科学省初等中等教育局情報教育・外国語教育課課長補佐	齋 藤 幸 義	国際部国際連携課長

令和元年7月8日付発令

新 職 名（発令事項）	氏 名	旧 職 名（現職名）
【課長・事務長・室長】 学務部国際交流課長 国際部国際連携課長	奴 賀 修 金 子 郁 代	医学系事務部総務課課長補佐 学務部国際交流課長

令和元年7月31日付発令

新 職 名（発令事項）	氏 名	旧 職 名（現職名）
【教授】 （任期満了） （辞職）	倉 谷 英 和 土 門 卓 文	大学院公共政策学連携研究部附属公共政策学研究センター教授 大学院歯学研究院教授

令和元年8月1日付発令

新 職 名（発令事項）	氏 名	旧 職 名（現職名）
【経営協議会委員】 （期間：令和3年7月31日まで）	三 浦 俊 章	朝日新聞編集委員
【教授】 大学院公共政策学連携研究部附属公共政策学研究センター教授 国際連携研究教育局・大学院医学研究院教授	城 戸 亮 工 藤 興 亮	総務省公害等調整委員会事務局総務課長 国際連携研究教育局・北海道大学病院准教授

新任教授紹介

令和元年8月1日付



公共政策学連携研究部
附属公共政策学研究センター教授に

城戸 亮 氏

生年

昭和39年

最終学歴

横浜国立大学大学院国際社会科学研究所博士課程
後期単位取得満期退学（平成29年3月）

専門分野

行政学，公務員法，公共政策，公共経営，人的資源管理，労働法，キャリア論



医学研究院教授に

工藤 與亮 氏

生年月日

昭和46年1月9日

最終学歴

北海道大学大学院医学研究科博士課程修了（平成15年3月）
博士（医学）（北海道大学）

専門分野

放射線科学分野

新任部課長等紹介

令和元年7月8日付



学務部国際交流課長に

奴賀 修 氏

昭和39年1月生

- 昭和61年3月 東北大学農学部卒業
- 平成3年4月 帯広畜産大学庶務課
- 平成6年4月 北海道大学教養部
- 平成7年4月 北海道大学学務部教務課
- 平成9年4月 北海道大学総務部総務課
- 平成12年4月 北海道大学文学研究科・文学部
- 平成14年4月 放送大学教務部教務課教務第三係長
- 平成14年9月 北海道大学総務部人事課専門職員
- 平成15年9月 北海道大学低温科学研究所専門職員
- 平成19年4月 北海道大学低温科学研究所係長
- 平成20年4月 北海道大学農学事務部係長
- 平成25年10月 北海道大学学務部教務課全学教育・総合教育推進室係長
- 平成26年4月 北海道大学学務部教育推進課係長
- 平成28年4月 帯広畜産大学教育研究支援部学務課課長補佐
- 平成29年4月 帯広畜産大学入試・教務課課長補佐
- 平成30年4月 北海道大学医学系事務部総務課課長補佐

HOKKAIDO UNIVERSITY
**HOME
 COMING
 DAY**
Be ambitious again!

9.28 2019 [SAT]

会場 北海道大学 札幌キャンパス
 主催 北海道大学
 共催 北海道大学校友会エルム

お問い合わせ先
北海道大学 総務企画部 広報課
 TEL:011-706-2101 FAX:011-706-2010
 受付時間:9:00~17:00(土・日・祝日を除く)

<https://www.hokudai.ac.jp/home2019/>

編集メモ

- 7月末から8月上旬にかけて、札幌では厳しい暑さが続きましたが、立秋を過ぎた頃から涼しく過ごしやすい日々を迎えています。
- 9月28日(土)に、ホームカミングデー2019を開催します。本年度も、全学行事の歓迎式典・記念講演会に加え、部局・同窓会主催行事

を実施します。

ホームカミングデー2019オフィシャルサイトでは参加申込を受け付けているほか、随時内容の更新をしていますので、ぜひご覧ください。皆様のご来学を心よりお待ちしております。

◆ <https://www.hokudai.ac.jp/home2019/>



2019.8.4 札沼線 晩生内～札的（浦白町）

北の鉄道風景 77 最後の夏を迎えて

夏の花の代表格ともいえる向日葵。景観形成を目的とした栽培のみならず、その種子を食用や油糧とするために栽培される作物でもある。来春の廃止が確定している札沼線末端区間の沿線にも、大きな向日葵畑が点在している。写真はそのうちの一つ、札的駅に程近い向日葵畑である。毎年、この畑には向日葵が作付けされているが、ここでは観賞用ではな

く、食用・油糧用作物として栽培されているのだろう。いずれにしても、ここを列車が走り抜ける光景が見られるのは今夏が最後であることに一抹の寂しさを禁じえない。

情報科学研究院 准教授 山本 学

北大時報 ⑧ No.785 令和元年8月発行

北海道大学総務企画部広報課 〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目

TEL：(011) 706-2610 / FAX：(011) 706-2092 / E-mail：kouhou@jimuhokudai.ac.jp

北大時報はインターネットでもご覧いただけます。https://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/jihou.html